

授業科目名： 子どもの健康と安全	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位 (演習)	担当教員名：遠藤 由美子 配当学年：二部3年 担当形態：単独
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（「子どもの健康と安全」）		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ：保育における保健的観点から、保育環境や援助について知識を深める。また、各種ガイドラインを用いた、安全対策を保育の視点で理解する。さらに、子どもの健康や安全の管理について組織的取り組みや保健活動の計画や評価方法について具体的に理解する。			
授業の概要：遠隔授業と対面授業の併用で遠隔授業を主とする。子どもの保健実習の必要性を理解する。健康状態の観察、子どもの身体測定、生理機能の測定、精神・運動発達機能の評価と記録の方法を学ぶ。また、乳幼児の日常生活上の保育環境と養護の実際、異常時の看護・怪我や事故時の応急処置・心肺蘇生法の演習において、技術習得と判断力の訓練を行う。			
<p>授業計画</p> <p>第1回：子どもの健康と保育環境（課題1）</p> <p>第2回：子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康及び安全の管理（課題2）</p> <p>第3回：保育における衛生管理（課題3）</p> <p>第4回：保育における事故防止と安全対策、危機管理（課題4）</p> <p>第5回：保育における災害への備え（液体ミルクや使い捨て哺乳瓶）（課題5）</p> <p>第6回：体調不良及び障害発生時の応急処置と対応（課題6）</p> <p>第7回：救急処置及び救急蘇生法（AEDの使用方法）（課題7）</p> <p>第8回：感染症の集団発生の予防と発生後の対応（ノロウイルスの対応・手袋のはめ方・外し方おむつの捨て方）（課題8）</p> <p>第9回：保育における保健的対応</p> <p>第10回：3歳児未満児への対応（子どもの扱い方）</p> <p>第11回：個別的な配慮を要する子どもへの対応（慢性疾患・アレルギー性疾患）</p> <p>第12回：障害のある子どもへの対応（歯磨きの仕方）</p> <p>第13回：職員間の連携・協働と組織的取り組み（家庭・専門機関・地域の関係機関）</p> <p>第14回：保育における保健活動の計画及び評価</p> <p>第15回：心豊かな子どもに育てるために</p>			
テキスト：保育者養成シリーズ 子どもの健康と安全 林邦雄・谷田貝公昭監修 株式会社 一藝社			
参考書・参考資料等			
<p>出席について：出席は3分の2以上とする。</p> <p>出席確認方法は、登校確認カード、点呼、及びオンライン入室方法の併用。（オンライン入室方法は、オンライン入室時にチャットにて入室を知らせるメールと学籍番号を入力する。授業の始まりにビデオ映像オンにした状態で教員が写メを撮り、映像による確認を行う。ビデオオンの指示に従わない場合は欠席扱いにする。授業内で指示によりリアクションを求める。リアクションがない場合、早退遅刻扱いとする。）</p> <p>学生に対する評価：①授業課題80点、②授業参加態度・興味・関心・主体性、20点</p> <p>*授業を欠席した際には、その授業の課題は原則として受理しない。</p> <p>①②を合計で100点。80点以上「優」、70～79点「良」、60～69点「可」、59点以下「不可」とする。</p>			

授業科目名： 特別支援教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位 (演習)	担当教員名：小林根・岩羽紗由実
			配当学年：二部1年
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	教育の基礎的理解に関する科目 (特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解)		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目(「障害児保育」)		
担当教員の実務経験	岩羽：小学校教諭(小学校・11年)		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>特別支援学校幼稚部や通常の学級に在籍している発達障害・知的障害など様々な障害等により、特別な支援を必要としている幼児・児童が保育活動において、遊びを通して達成感や自己肯定感を学び、生きる力を身につけていくことができるようにする。</p> <p>また、幼児・児童が保育や生活場面における困難や経験不足を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら、保育園や幼稚園や認定こども園が組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。</p>			
授業の概要			
<p>特別な支援を必要とする幼児・児童に対する必要な人間観や障害観を学び、特性及び心身の発達を理解する。また、保育・教育課程や関係機関との関わりや支援の方法を理解する。また、その他の特別な教育的ニーズのある幼児や児童の保育や、生活上の困難とその対応を理解する。</p>			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション 障害・特別な教育的ニーズとは何か</p> <p>第2回：特別支援教育(障害児保育)の理念、インクルーシブ教育(保育)、特別支援教育の制度</p> <p>第3回：障害の概念(ICFの障害)と歴史の変遷</p> <p>第4回：障害の理解と発達の援助(発達障害(学習障害LD 注意欠陥多動性障害ADHD))</p> <p>第5回：障害の理解と発達の援助(発達障害(自閉症スペクトラム障害ASD))</p> <p>第6回：障害の理解と発達の援助(知的障害)</p> <p>第7回：障害の理解と発達の援助(肢体不自由)</p> <p>第8回：障害の理解と発達の援助(病弱児 医療的ケア児)</p> <p>第9回：障害の理解と発達の援助(視覚障害)</p> <p>第10回：障害の理解と発達の援助(聴覚障害:言語障害)</p> <p>第11回：障害の理解と発達の援助(重症心身障害児)</p> <p>第12回：障害の受容について</p> <p>第13回：保護者の支援(特別支援教育コーディネーターと特別支援学校)</p> <p>第14回：関係機関の連携(幼稚園 保育園 小学校 発達支援センター 医療・保健などの機関)</p> <p>第15回：まとめ 確認試験</p> <p>第16回：支援の方法の基本 教育課程(通級、訪問、自立活動)</p> <p>第17回：支援の方法と個別教育支援計画(発達障害)</p> <p>第18回：支援の方法と個別教育支援計画(知的障害)</p> <p>第19回：支援の方法と個別教育支援計画(肢体不自由)</p> <p>第20回：支援の方法と個別教育支援計画(病弱児 医療的ケア児)</p> <p>第21回：支援の方法と個別教育支援計画(視覚障害)</p> <p>第22回：支援の方法と個別教育支援計画(聴覚障害と言語障害)</p> <p>第23回：支援の方法と個別教育支援計画(重症心身障害児)</p> <p>第24回：支援の実際(障害児のアセスメント)</p> <p>第25回：支援の実際(支援体制づくり)</p> <p>第26回：支援の実際(ムーブメント教育・療法)</p> <p>第27回：幼稚園 保育園 認定こども園での統合保育の実際(環境 人間関係 健康安全)</p> <p>第28回：その他の教育的ニーズをもつこどもの理解と支援 外国につながる子ども・貧困等</p> <p>第29回：障害のある子どもの保育に関わる現状と課題</p> <p>第30回：まとめ 確認試験</p>			
テキスト			
前田泰弘編著「実践に生かす 障害児保育・特別支援教育」(株)萌文書林 2019			
参考書・参考資料等			
<ul style="list-style-type: none"> ・よくわかる障害児保育 尾崎康子編著 (株)ミネルヴァ書房 2019 ・シリーズ 知のゆりかご ライフステージを見通した障害児の保育・教育 (株)みらい 2018 			
学生に対する評価			
授業態度(40%) レポート(30%) 試験(30%)			

授業科目名： 特別支援教育	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 2単位 (演習)	担当教員名：武藤 篤訓
			配当学年：二部2年
			担当形態：単独
—	—		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（「障害児保育」）		
担当教員の実務経験			
授業の到達目標及びテーマ 特別支援学校幼稚部や通常の学級に在籍している発達障害・知的障害など様々な障害等により、特別な支援を必要としている幼児・児童が保育活動において、遊びを通して達成感や自己肯定感を学び、生きる力を身につけていくことができるようにする。 また、幼児・児童が保育や生活場面における困難や経験不足を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら、保育園や幼稚園や認定こども園が組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。			
授業の概要 特別な支援を必要とする幼児・児童に対する必要な人間観や障害観を学び、特性及び心身の発達を理解する。また、保育・教育課程や関係機関との関わりや支援の方法を理解する。また、その他の特別な教育的ニーズのある幼児や児童の保育や、生活上の困難とその対応を理解する。この授業は同時双方向的遠隔授業（ZOOM）として開講する			
授業計画 第1回：オリエンテーション 特別支援教育を学ぶ意味 第2回：特別支援教育（障害児保育）とは 第3回：特別支援教育の流れ、障害の概念（ICFの障害）と歴史の変遷 第4回：特別支援教育の基本 第5回：知的障害の理解と保育 第6回：肢体不自由の理解と保育 第7回：重症心身障害児の理解と保育 第8回：聴覚障害の理解と保育 第9回：視覚障害の理解と保育 第10回：言語障害の理解と保育 第11回：発達が気になる子どもの理解と保育 第12回：自閉症スペクトラム障害の理解と保育 第13回：学習障害の理解と保育 第14回：注意欠陥多動性障害の理解と保育 第15回：多様な支援を必要とする子どもの理解と保育 第16回：子ども理解に基づく計画の作成と記録・評価① 第17回：子ども理解に基づく計画の作成と記録・評価② 第18回：個々の発達をうながす生活や遊びの環境① 第19回：個々の発達をうながす生活や遊びの環境② 第20回：ムーブメント教育・療法 第21回：感覚統合 第22回：他者とのかかわりと育ちあい① 第23回：他者とのかかわりと育ちあい② 第24回：生活を広げる方法 第25回：職員間の協力関係 第26回：家庭や関係機関との連携 第27回：障害のある子どもの早期発見と支援 第28回：障害のある子どもの就学に向けての支援 第29回：障害のある子どもの関連資源の現状と課題 第30回：支援の場の広がりにつながり			
テキスト 前田泰弘編著「実践に生かす 障害児保育・特別支援教育」(株)萌文書林 2019			
参考書・参考資料等 ・よくわかる障害児保育 尾崎康子編著 (株)ミネルヴァ書房 2019 ・シリーズ 知のゆりかご ライフステージを見通した障害児の保育・教育 (株)みらい 2018			
学生に対する評価 平常点 (20%) レポート(40%) 期末試験 (60%)			

授業科目名： 社会的養護Ⅱ	学則に定める必修／選択の別 必修	単位数： 1単位 (演習)	担当教員名：蠣崎 尚美 配当学年：二部2年 担当形態：単独
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（「社会的養護Ⅱ」）		
担当教員の実務経験	—		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>社会的養護Ⅰで学んだ基礎知識を基に、社会的養護に係る事例を中心に、援助内容、方法について演習を通して理解を深める。そして、社会的養護の施設の保育者に求められる倫理・資質を学ぶ。</p>			
<p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例を取り入れながら利用者への援助の方法・技術について理解する。 ・児童養護施設等における日常生活を理解し、よりよい支援のあり方を学ぶ。 ・児童養護施設を中心に、支援者の視点から、子どもを取り巻く社会の現状を考える。 			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、授業内容の説明、社会的養護Ⅰの復習</p> <p>第2回：社会的養護の理念と体系</p> <p>第3回：社会的養護と子どもの権利について</p> <p>第4回：社会的養護における支援内容・支援の展開</p> <p>第5回：施設養護のインケア</p> <p>第6回：自立支援計画・記録・評価</p> <p>第7回：社会的養護に関わる専門的技術</p> <p>第8回：社会的養護の実際①（乳児院の事例）</p> <p>第9回：社会的養護の実際②（母子生活支援施設の事例）</p> <p>第10回：社会的養護の実際③（児童養護施設の事例）</p> <p>第11回：社会的養護の実際④（里親の事例）</p> <p>第12回：社会的養護の実際⑤（障害児入所施設の事例）</p> <p>第13回：社会的養護の実際⑥（児童発達支援センターの事例）</p> <p>第14回：社会的養護の課題と展望</p> <p>第15回：振り返り、試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>社会的養護Ⅱ 喜多一憲・監修、堀場純矢・編集（株みらい）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>定期試験70%、学習意欲20%、課題10%</p>			

授業科目名： 子育て支援	学則に定める必修／選択の別 必修	単位数： 1単位 (演習)	担当教員名：古谷淳
			配当学年：二部3年
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（「子育て支援」）		
担当教員の実務経験	—		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回： 子育て支援とは</p> <p>第2回： 子育て支援の意義</p> <p>第3回： 子育て支援の基本的価値・倫理</p> <p>第4回： 子育て支援の基本姿勢</p> <p>第5回： 子育て支援の基本的技術</p> <p>第6回： 園内・園外との連携と社会資源</p> <p>第7回： 記録・評価・研修</p> <p>第8回： 日常会話を活用した子育て支援</p> <p>第9回： 文章を活用した子育て支援</p> <p>第10回： 行事などを活用した子育て支援</p> <p>第11回： 環境を活用した子育て支援</p> <p>第12回： 地域子育て支援拠点における支援</p> <p>第13回： 入所施設における子育て支援</p> <p>第14回： 通所施設における子育て支援</p> <p>第15回： テスト</p>			
<p>テキスト</p> <p>なし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>各自ノート・ルーズリーフを用意する</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業評価20%、テスト80%</p>			

授業科目名： 教育の方法と技術	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 1単位 (講義)	担当教員名： 武藤篤訓
			配当学年： 二部1年
			担当形態： 講義
教員養成課程の区分	－生徒指導・教育相談等に関する科目		
保育士養成課程の区分	－学校独自の科目		
担当教員の実務経験	－		
授業の到達目標及びテーマ これから社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な幼児教育の方法や技術・情報機器及び活用に関する基礎的知識・技能を身につける。			
授業の概要 この授業では、主体的対話的で深い学びをするために基礎的な教育の方法について理解し、それを実際の幼稚園教育のさまざまな場面に活用するための資質・能力を育成するための基本と幼稚園に必要な知識を取得するための基本を習得するとともに、演習を通して保育の方法と技術を身につける科目である。各回講義と演習を行う。			
授業計画 (それぞれ各項目のテキストの予習・復習をする)			
第1回 オリエンテーション 幼児教育の基本と方法			
第2回 幼児理解の方法			
第3回 環境の構成と保育の展開			
第4回 一人一人に応じた指導			
第5回 保育の質の評価			
第6回 生活の指導			
第7回 生活の指導			
第8回 豊かな経験と園行事			
第9回 小学校との連携			
第10回 様々な小学校との連携			
第11回 主体的・対話的な深い学びと教材研究 (情報機器の操作)			
第12回 学びあい育ちあうクラスづくり			
第13回 児童文化財と保育			
第14回 情報機器及び情報機器の活用①			
第15回 情報機器及び情報機器の活用②			
テキスト 神長美津子・津金美智子・五十嵐市郎 「保育方法論」 光生館			
参考書・参考資料等 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定子ども園教育保育要領			
学生に対する評価 平常点 20% レポート 40% 期末試験 60%			

授業科目名： 教育相談論（演習）	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 2単位 （演習）	担当教員名：竹居田幸仁
			配当学年：二部2年
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 （幼児理解の理論及び方法・教育相談（カウンセリングを含む））		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目		
担当教員の実務経験	公立小中学校の教育相談・スクールカウンセラー（19年）		
授業の到達目標及びテーマ ①教育相談や心理学、カウンセリングの知識及び技術を通して、自己理解を深める。 ②心理的問題を抱える子どもや子育てに悩む保護者を理解する視点や支援法を学ぶ。 ③地域の医療・福祉・教育相談機関等との連携の意義や必要性を理解する。			
授業の概要 前期は、教育相談、心理学、カウンセリングの知識及び技術を学び、自己理解を深める。 後期は、前期で学んだ内容を活かし、引き続き自己理解を深める。また、子どもや保護者を理解する視点や支援法、地域社会の様々な関係機関との連携の意義や必要性を学ぶ。			
授業計画 第1回 前期講義で学ぶこと（オリエンテーション） 第2回 親しみやすさの背景「対人魅力」 第3回 受容と拒否の影響「安心感と自尊感情」 第4回 心を守る方法「防衛機制」 第5回 愛着と対人関係「アタッチメント」 第6回 家族関係の理解「ジェノグラム」 第7回 生育歴の理解「ライフストーリー」 第8回 親と私「親子の自立」 第9回 5人の私「エゴグラム」 第10回 イメージの世界「風景構成法」 第11回 カウンセリングの基本「来談者中心療法」 第12回 メッセージの送り方「アイ・メッセージ」 第13回 見方を変える「リフレーミング」 第14回 前期講義の振り返りやまとめ 第15回 前期試験 第16回 後期講義で学ぶこと（オリエンテーション） 第17回 子どもや保護者「見立てる・支援」意味 第18回 子ども「見立てる・支援」（1）心理的問題 第19回 子ども「見立てる・支援」（2）発達的問題 第20回 子ども「見立てる・支援」（3）心理検査 第21回 子ども「見立てる・支援」（4）外傷体験 第22回 保護者「見立てる・支援」（1）親子関係 第23回 保護者「見立てる・支援」（2）精神症状 第24回 保護者「見立てる・支援」（3）家庭環境 第25回 保護者「見立てる・支援」（4）関係性査定 第26回 保育者「教育相談・カウンセリング」（1）メンタルヘルス 第27回 保育者「教育相談・カウンセリング」（2）メッセージの送り方① 第28回 保育者「教育相談・カウンセリング」（3）メッセージの送り方② 第29回 後期講義の振り返りやまとめ 第30回 後期試験			
テキスト テキストは使用しません。			
参考書・参考資料等 講義中に資料を配布します。			
学生に対する評価 出席状況と提出課題（50%）、前後期試験（50%）により評価する。			

授業科目名： 倫理学	学則に定める必修/選択の別 必修科目/選択科目 必修	単位数： 2単位 (講義)	担当教員名：大岡 紀理子
			配当学年：二部1年
			担当形態：講義
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	—		
担当教員の実務経験	—		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>倫理学とは、人間の生き方を探究する学問である。現代は、様々なことが加速度的に変化する時代であり、物事を考えるときには、それぞれの状況や場面に応じて、多角的に捉えて判断する必要性が増している。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この授業では、重要なテーマでありながら、これまで真剣に向き合う機会の少なかったと考えられる課題や問題を取り上げ、その理解を深める。また、学生が主体になって熟考し、議論する場も持つ。この授業で学び得たことや経験が生かされ、今後、社会において個々人が様々な問題に直面した際に、自ら考え、責任を持った言動をし、しっかりと乗り越えていくことを切望する。</p>			
<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 倫理学とは 2 世界の現状について 3 社会と倫理について 4 命と食について 5 子どもの権利条約について 6 赤ちゃんポストについて 7 代理母について 8 児童虐待について 9 いじめについて 10 死刑制度について 11 動物実験について 12 臓器移植について 13 出生前診断について 14 安楽死について 15 まとめとテスト 			
<p>テキスト</p> <p>特になし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業内で適宜紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>試験70% と平常点30%で総合的に評価する。</p>			

授業科目名： 教育学	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 2単位 (講義)	担当教員名：大岡 紀理子 配当学年：二部2年 担当形態：単独
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	教養科目 (外国語、体育以外の科目)		
担当教員の実務経験	—		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>教育の基礎的概念・理論・歴史・思想等について学び、教育の意義・目的を理解する。そして、現在の教育の諸課題に関する基礎的な内容について、理解することを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>「教育とは何か」、「教育は何をめざすか」という教育の意義や目的、人間の成長・発達について、基本的な内容を理解する。また、西欧及び日本における教育の理念や思想の歴史の変遷を踏まえるとともに、現在の日本の教育について多様な観点から考察する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 教育の意義と目的</p> <p>第3回 教育の歴史(1) (「子どもの誕生」)</p> <p>第4回 教育の歴史(2) (家庭教育・学校教育)</p> <p>第5回 諸外国の教育理論</p> <p>第6回 日本の教育理論</p> <p>第7回 教育の制度</p> <p>第8回 教育の方法とカリキュラム</p> <p>第9回 教育に関する思想(1) (コメニウス、ロック、ルソー)</p> <p>第10回 教育に関する思想(2) (ペスタロッチ、フレーベル)</p> <p>第11回 教育に関する思想(3) (ヘルバルト、デューイ、モンテッソーリ)</p> <p>第12回 教育の諸課題(1) (求められる教員像と教員評価)</p> <p>第13回 教育の諸課題(2) (学級課題とその背景)</p> <p>第14回 教育の諸課題(3) (日本・諸外国の教育改革動向)</p> <p>第15回 まとめ・テスト</p>			
<p>テキスト</p> <p>特になし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業内で適宜紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>試験70%と平常点30%で総合的に評価する。</p>			

授業科目名： 日本国憲法	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 2 単位 (講義)	担当教員名：小澤 由理
			配当学年：二部1年
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	教養		
保育士養成課程の区分	教養		
担当教員の実務経験	—		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>保育者にとって人権を尊重することは保育の基礎です。本講義では権利としての人権が日本国憲法によってどのように保障されているのかを正しく理解することで、保育の現場における人権の尊重について考えることを目指します。講義では①憲法とはどのような法であるかを理解し、②日本国憲法の定める基本的人権について、その意義・内容について理解を深めます。そして③日常生活の出来事や社会問題について人権保障の観点から考察する力を養います。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>日本国憲法の成立とその理念について理解し、基本的人権の内容（自由権・社会権・教育権）について理解します。また国民権と政治の仕組み、裁判所と司法権、平和主義について理解し、様々な社会問題や保育問題を考察するとともに、今日の憲法改正の動向についても理解します。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション：保育者はなぜ日本国憲法を学ぶのか。</p> <p>第2回：日本国憲法の歴史とその基本原理【自由権と社会権】</p> <p>第3回：日本国憲法における基本的人権【三権分立 最高法規】</p> <p>第4回：三権分立と国民権、内閣の役割【憲法の歴史】</p> <p>第5回：幸福追求権</p> <p>第6回：自由権：思想・良心の自由、信教の自由</p> <p>第7回：自由権：表現の自由・学問の自由</p> <p>第8回：自由権：職業の自由・財産権</p> <p>第9回：社会権と生存権</p> <p>第10回：教育を受ける権利と義務</p> <p>第11回：社会権と勤労権</p> <p>第12回：裁判所の役割、司法権</p> <p>第13回：安全保障と自衛隊の存在</p> <p>第14回：憲法改正の動向</p> <p>第15回：講義の振り返り・期末テスト</p>			
<p>テキスト 1. 授業内で提示するスライド・および資料</p> <p>2. 橋本勇人『保育と日本国憲法』みらい社 2018年 ISBN 9784860154608</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>芦部信喜『憲法（第6版）』岩波書店2015年</p> <p>保育所保育指針（平成29年告示 厚生労働省）</p> <p>幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示内閣府・文部科学省・厚生労働省）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>期末試験60%、授業内で提示する課題 40%</p>			

授業科目名： 情報機器の操作	学則に定める必修/選択の別 必修科目	単位数： 2単位 (演習)	担当教員名：山本輝太郎
			配当学年：二部3年
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	学校独自の科目		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ 保育士、幼稚園教諭業務に必要な基本的なPCスキルおよび現代のネット社会における情報リテラシーを身につけます。具体的には、ワード、エクセル、パワーポイントなどの基本ツールについて、想定される業務内容（たとえば「園だより」の作成など）に応じた使用方法を学びます。加えて、SNSなどのオンラインコミュニケーションツールの利活用やその課題の把握、さらに、玉石混合な情報の真偽の見極めができるようになる「情報リテラシー」を習得します。			
授業の概要 授業では基本的にPCを使いながら、以下のステップに従って学習します。 ステップ1 (Word)：文章作成、編集に関する基本スキルの習得 ステップ2 (Excel)：データ記録、分析に関する基本スキルの習得 ステップ3 (Power Point)：プレゼン資料やフライヤー作成に関するスキルの習得 ステップ4 (ウェブ情報)：コミュニケーションツールの利活用や情報の見極めに関する知見の理解・把握			
授業計画 1 オリエンテーション 使用ツール解説 基礎習熟度の把握 2 Officeソフト説明 現代社会と情報（「フェイク」時代における情報リテラシー） 【ステップ1 (Word)】 3 基本機能の確認と操作 4 体裁・レイアウト 5 図表の挿入と編集① 図形の組み合わせ、配置、編集 6 図表の挿入と編集② 表の作成、配置、編集 7 さまざまな機能の活用（グリッド線、ぶら下げ、ヘッダーとフッター、段組みなど） 8 課題演習Ⅰ：「園だより」の作成 【ステップ2 (Excel)】 9 基本機能の確認と操作 10 基本関数の操作（SUM、AVERAGEなど） 11 グラフの作成（集合縦棒から散布図まで） 12 ExcelデータのWord利用 13 データ分析・読解の基礎（代表値の性質、ばらつき、分布など） 14 課題演習Ⅱ：「園児名簿」の作成 15 前期まとめ 【ステップ3 (Power Point)】 16 基本機能の確認と操作 17 レイアウト、配色、オブジェクトの編集 18 アニメーションとエフェクト 19 図表の作成と画像の取り込み・挿入 20 画像等の利用に関する注意点（フリー素材、creative commonsなど） 21 課題演習Ⅲ：「〇〇紹介プレゼン資料」の作成 22 パワポによるチラシ・フライヤー作成① 23 パワポによるチラシ・フライヤー作成② 24 課題演習Ⅳ：「告知ポスター」or「遠足のしおり」の作成 【ステップ4 (ウェブ情報)】 25 オンラインツールの利活用と課題① SNS利用と自己開示 26 オンラインツールの利活用と課題② 集団極性化、誤謬論、認知バイアス 27 情報リテラシー① 情報を吟味し、見極める（エビデンスレベル、メタ分析） 28 情報リテラシー② クラウドソーシングとオンライン調査 29 課題演習Ⅴ：最終課題の作成 30 全体まとめ			
テキスト 授業内で配布する資料（基本電子データとなるため、受講者は各自USBメモリなどのデータ保存用デバイスを購入しておくこと。メーカー等自由、容量は8GB程度で十分です）			
参考書・参考資料等 阿部正平ほか（2018）『保育者のためのパソコン講座』萌文書林 土岐順子ほか（2016）『情報利活用 基本演習～Office 2016対応』日経BP			
学生に対する評価 課題70%、授業への参加30% 授業内で適宜小課題を実施します（「授業への参加」）。また、最終的に授業全体を通して3～5つ程度の成果物ファイルを提出してもらい、それをもとに成績評価を行います（「課題」）。			

授業科目名： 英語	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 2 単位 (演習)	担当教員名： 加藤磨理子
			配当学年：二部1年
			担当形態： 単独
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	—		
担当教員の実務経験	幼稚園、保育園での英語指導の実務経験あり		
授業の到達目標及びテーマ 国際化の進行する保育現場において、英語を母語とする幼児、保護者と、日本語を母語とする幼児への双方に対して、基本的な英語でのコミュニケーションが取れるようになることを目指す。保育に最低限必要な英単語を理解し、正確に発音、表記することができるようになる。			
授業の概要 テキスト『保育の英会話』をベースに、歌、映像などを取り入れて、子どもが英語に親しみ新しい文化を知るきっかけを与える保育者を目指す。授業の前半ではテキスト演習の座学を中心に。後半では子ども向けの英語の歌を、歌詞の内容と子どもが興味を惹くポイントを理解した上で、保育現場で実際に使うことができるように練習をする。適宜、映像資料も視聴する。			
授業計画 第1回： イントロダクション 授業概要。前期授業とのつながり。 第2回： Unit7 保育者の一日 保育者の一日を振り返ろう “Twinkle, Twinkle, Little Star” 第3回： Unit7 保育者の一日 0歳、一歳児の保育 “London Bridge” 第4回： Unit8 昼食の始まり、声かけをしよう “1,2,3,4,5 Clap Clap” 第5回： Unit8 献立を覚えよう “The Wheels on the Bus” 第6回： Unit9 トイレと排泄 “Old MacDonald Had a Farm” 第7回： Unit9 連絡帳 “Row, Row, Row Your Boat” 第8回： Unit10 子ども同士の喧嘩 “Where Is Thumbkin?” 第9回： Unit10 ～してはいけません、～しましょう “Seven Steps” 第10回： Unit11 怪我と病気①保護者へ報告 “Pat-a-Cake, Pat-a-Cake” 第11回： Unit11 怪我と病気②けがや病気の英単語 “Are You Sleeping?” 第12回： Unit12 電話でのやりとり／グループワーク 第13回： Unit14 赤ちゃんへの声かけ／グループワーク 第14回： Unit15 卒園／グループワーク 第15回： グループ発表、試験とまとめ			
テキスト 『保育の英会話』（赤松直子、久富陽子著 萌文書林）			
参考書・参考資料等 『くもんはじめてのえいごうたえほん』（公文教育研究会英語教材部）			
学生に対する評価 実技60%、筆記試験（単語テスト）20%、グループワークへの積極性（最終回のグループ発表に向けて、複数で協力し合って一つの作品を作り出す姿勢に着目する。実際の保育の現場を想定して、積極的なコミュニケーションを取り合うことを目標にする）20%			

授業科目名： 英語	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 2 単位 (演習)	担当教員名： 加藤磨理子 配当学年： 二部 2 年 担当形態： 単独
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	—		
担当教員の実務経験	幼稚園、保育園での英語指導の実務経験あり		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>国際化の進行する保育現場において、英語を母語とする幼児、保護者と、日本語を母語する幼児への双方に対して、基本的な英語でのコミュニケーションが取れるようになることを目指す。保育に最低限必要な英単語を理解し、正確に発音、表記することができるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>テキスト『保育の英会話』をベースに、歌、映像資料などを取り入れて、子どもが英語に親しみ新しい文化を知るきっかけを与える保育者を目指す。前半ではテキスト演習の座学を中心に。後半では子ども向けの英語の歌を、歌詞の内容と子どもが興味を惹くポイントを理解した上で、保育現場で実際に使うことができるように練習をする。適宜、映像資料も視聴する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回： イントロダクション 授業の進め方、自己紹介</p> <p>第2回： Unit1 保育の英会話への第一歩 “The Alphabet Song”</p> <p>第3回： Unit1 リスニングの基本、保育の英単語 “Finger Family”</p> <p>第4回： Unit2 挨拶の決まり “Bingo”</p> <p>第5回： Unit2 家庭調査票を読み取る “Mary Had a Little Lamb”</p> <p>第6回： Unit3 時刻の表し方 “Good Morning”</p> <p>第7回： Unit3 持ち物のお知らせと数 “Lazy Mary”</p> <p>第8回： Unit4 地図と場所 “Sunday,Monday,Tuesday”</p> <p>第9回： Unit4 道案内をしてみよう “Head,Shoulders,Knees and Clap!”</p> <p>第10回： Unit5 子供の遊び “Happy Birthday to you”</p> <p>第11回： Unit5 動作と遊びの英単語 “The Hokey-Pokey”</p> <p>第12回： Unit6 登園、今日の天気は？/グループワーク</p> <p>第13回： Unit6 降園、どんな一日だった？/グループワーク</p> <p>第14回： Unit6 自分のことを表現しよう ～したことある？/グループワーク</p> <p>第15回： グループ発表、試験とまとめ</p>			
<p>テキスト</p> <p>『保育の英会話』（赤松直子、久富陽子著 萌文書林）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>『くもんはじめてのえいごうたえほん』（公文教育研究会英語教材部）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>実技60%、筆記試験（単語テスト）20%、グループワークへの積極性（最終回のグループ発表に向けて、複数で協力し合って一つの作品を作り出す姿勢に着目する。実際の保育の現場を想定して、積極的なコミュニケーションを取り合うことを目標にする）20%</p>			

授業科目名： 体育	学則に定める必修/選択の別 必修科目	単位数： 2単位 (講義・実技)	担当教員名：中山 恭一
			配当学年：二部1年
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	一般教養科目		
保育士養成課程の区分	教養科目(体育)		
担当教員の実務経験	-		
授業の到達目標及びテーマ スポーツや身体活動(運動プログラム)の実践を通して自己体力の現況を認識し、またお互いを認め合いながらコミュニケーションスキルを高め合うことが出来る。また、各自の心とからだも良い状態に維持・向上させる習慣(セルフマネジメント能力《自己管理能力》)を身に付けることが出来る。そして、生涯スポーツのきっかけとなるような様々なスポーツを体験する。			
授業の概要 ・自分の体力を把握すると共に、身近にある様々な用具を使い、グループワークやディスカッションを取り入れてスポーツを楽しみ、学生自らが基礎体力を養える援助を行う。 ・実技と並行し、アクティブ・ラーニングの取り組みとしてICTを利用し、学生各自で作成した運動プログラムを日々実践し、週単位で振り返り自己評価を行う。これを前期期間中繰り返すことが出来るよう援助を行う。また日頃から{ダイエットアプリ「FiNC(フィンク)」(無料)}等を積極的に活用し、栄養&運動&休息等のサポートを受け、学生各自がコンディションを把握・分析し日常生活に活かせるような取り組みを促す。そして、最終的にはこれらを資料として、科学的根拠を基に自身の取り組みを振り返り、日常生活に活かす工夫を考えレポートとしてまとめていけるよう働きかける。			
☆事前・事後学修： ◎{子ども・健康・教育(保育)・スポーツ全般・福祉}等をキーワードに新聞・雑誌&インターネット等を利用して情報収集を行い、自身の身の回りの状況に目を向ける。 ◎各自事前に心肺蘇生における各関係団体の実施している講習を修了していることが望ましい(未講習者はインターネット等から情報を収集する)。 ◎各実施種目のルールと特性を確認しておくこと(各種目の試合映像や一流選手のプレーを観察する等)。 ◎授業中の運動強度がどの程度であったかを、授業中に測定した心拍数を基に計算し、運動の内容と強さとの関係について分析する。 ◎ダイエットアプリ《FiNC(フィンク);無料》等を活用し、栄養&運動&休息等のサポートを受け、日常生活及び授業において身体を良好な状態にして臨む。 ◎学生各自で作成した運動プログラムを日々実践し、自己評価を行う。			
☆課題に対するフィードバックの方法： ◎学生から寄せられた質問や感想等は、必要に応じて授業中に全履修学生に対しその内容を伝え解説を加える等の対応を行っている。 ◎授業内課題およびレポート等は、翌週以降にコメントを付けて返却する。			
授業計画 第1回：授業概要，スポーツマンシップについて / {アクティブ・ラーニング；運動プログラム作成準備} 第2回：身体活動が脳と心とからだに及ぼす影響について①(実践例) / {アクティブ・ラーニング；運動プログラム作成} 第3回：身体活動が脳と心とからだに及ぼす影響について②(理論編) / {アクティブ・ラーニング；運動プログラム実践・評価} 第4回：身体活動が脳と心とからだに及ぼす影響について③(脳科学を応用した発達支援) / {アクティブ・ラーニング；運動プログラム実践・評価} 第5回：性教育・健康教育の視点から“命の尊さ”を学ぶ①(テーマ：臓器移植) / {アクティブ・ラーニング；運動プログラム実践・評価} 第6回：性教育・健康教育の視点から“命の尊さ”を学ぶ②(テーマ：人工妊娠中絶と法改正) / {アクティブ・ラーニング；運動プログラム実践・評価} 第7回：心肺蘇生法の基礎知識について(胸骨圧迫を中心に実施) / {アクティブ・ラーニング；運動プログラム実践・評価} 第8回：心肺蘇生法の基礎知識と技術について(胸骨圧迫を中心に実施) / {アクティブ・ラーニング；neo運動プログラム作成・実践・評価} 第9回：心肺蘇生法の実践トレーニング(胸骨圧迫を中心に実施) / {アクティブ・ラーニング；neo運動プログラム実践・評価}			

- 第10回：心肺蘇生教育の知識と技術における重要事項の確認試験（胸骨圧迫を中心に実施）
/ {アクティブ・ラーニング；neo運動プログラム実践・評価}
- 第11回：心肺蘇生教育の知識と技術の振り返り&まとめ（胸骨圧迫を中心に実施）
/ {アクティブ・ラーニング；neo運動プログラム実践・評価}
- 第12回：フィットネストレーニング① 運動プログラム実践パターン①：有酸素運動、筋力トレーニング、ストレッチング
/ {アクティブ・ラーニング；neo運動プログラム実践・評価}
- 第13回：フィットネストレーニング② 運動プログラム実践パターン②：有酸素運動+筋力トレーニング（インターバルトレーニング形式）、ストレッチング（初心者ヨガ）
/ {アクティブ・ラーニング；neo運動プログラム実践・評価}
- 第14回：バドミントン① ダブルスの戦術
/ {アクティブ・ラーニング；neo運動プログラム実践・評価}
- 第15回：バドミントン② ダブルスの簡易ゲーム
/ {アクティブ・ラーニング；neo運動プログラム実践・評価、まとめ（最終課題レポート）}

テキスト

適宜、資料等を提示する

参考書・参考資料等

- ◎『アクティブスポーツ女子版』大修館書店
- ◎ジョンJレイティ著 『脳を鍛えるには運動しかない！最新科学でわかった脳細胞の増やし方』NHK出版
- ◎清水貴子著 ジョンJレイティ監修 『発達障害の子の脳をきたえる 笑顔がはじけるスパーク運動療育』小学館
- ◎正木健雄・井上高光・野尻ヒデ著 『脳をきたえる「じゃれつき遊び」』小学館
- ◎竹脇まりな著 『やせるダンス』KADOKAWA
- ☆ダイエットアプリ『FiNC(フィンク)』（無料）

学生に対する評価

- ①毎日の運動プログラムの実践&評価（日々実践&記録を行い、こまめに自己評価をし反映しているか）：30%
 - ②各回の課題達成・授業理解（各自が到達目標・各回のポイントを意識し取り組んでいるか：授業に臨む準備が良好であるか・コミュニケーションを取りながら行われているか等），確認試験：50%（うち確認試験 20%を含む）
 - ③最終レポート試験：題目「前期期間中にスポーツ（身体活動；運動プログラム）を通して各自の心身の変化を科学的根拠を基に分析し、自身の日常生活に活かす工夫を考察する」：20%
- ※1. 実技時の服装はスポーツウェア、靴は運動靴に限定し、それ以外の着用は安全上の観点から参加は認められない。2. 授業前は十分な睡眠と適切な食事をとり、体調管理に務めること。

授業科目名： 音楽Ⅰ	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 2単位 (演習)	担当教員名： 野戸智美／他17名
			配当学年：二部1年
			担当形態：単独、クラス分け
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目（領域に関する専門的事項）		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（保育内容の理解と方法）		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>1 保育の場で必要とされる、総合的な音楽の基礎力を学び身につける。</p> <p>2 主にピアノを媒介として、鍵盤楽器奏法の基本と童謡歌曲等の伴奏法並びに弾き歌いの力を養成する。</p>			
授業の概要			
<p>1 本校独自の音楽グレード制をベースに、最低目標値をバイエル終了程度とする。</p> <p>2 年間10回程度のグレード検定試験を行ない、個々のペースにあわせて試験を受けられる。</p>			
授業計画			
<p>第1回：ガイダンス ピアノ学習の目的と心構え グレード設定。</p> <p>第2回：バイエルNo.1～No.9。正しい姿勢 椅子の高さ 指の位置。</p> <p>第3回：バイエルNo.10～No.20。指使い 正確な音の長さの理解について。</p> <p>第4回：バイエルNo.11～No.20。指使い 正確な音の長さの理解スラーについての確認。</p> <p>第5回：バイエルNo.21～No.30。タイについて 鍵盤の位置。</p> <p>第6回：バイエルNo.21～No.30。タイについて 鍵盤の位置の確認。</p> <p>第7回：バイエルNo.31～No.50。オクターブ記号 付点音符について 全音符から8分音符までの正確な音価。</p> <p>第8回：バイエルNo.31～No.50。オクターブ記号 付点音符について 全音符から8分音符までの正確な音価の確認。</p> <p>第9回：バイエルNo.51～No.79。スタカート アウフタクト ヘ音記号。童謡任意弾き歌い。</p> <p>第10回：バイエルNo.51～No.79。分散形伴奏 ト長調。童謡任意弾き歌いの確認。</p> <p>第11回：バイエルNo.80.83.85。前打音 手の交差奏法 ニ長調・イ長調・ホ長調・ヘ長調。童謡任意弾き歌い。</p> <p>第12回：バイエルNo.88.89.90。16分音符の早い動き 16分休符の意識。童謡任意弾き歌い。</p> <p>第13回：バイエルNo.91.93.95。イ短調 6度の奏法。童謡任意弾き歌い。</p> <p>第14回：バイエルNo.96.97.98。前打音装飾音符 3度の動き。童謡任意弾き歌い。</p> <p>第15回：バイエルNo.80～No.98の中より任意の2曲 童謡の中より任意の2曲（7グレード）。</p> <p>第16回：バイエルNo.99.100.101.102。複付点音符 ポジションの跳躍。童謡任意弾き歌い マーチ。</p> <p>第17回：バイエルNo.99.100.101.102。童謡任意弾き歌い マーチ。</p> <p>第18回：バイエルNo.103.104.105。半音階奏法。童謡・マーチの奏法。</p> <p>第19回：バイエルNo.103.104.105。童謡任意弾き歌い マーチ。</p> <p>第20回：バイエルNo.103.104.105。童謡任意弾き歌いマーチの確認。</p> <p>第21回：バイエルNo.100.102.104.105。の中より任意の2曲 童謡マーチの中より任意の2曲。（6グレード）</p> <p>第22回：ブルグミュラー 25の練習曲 No.1 童謡 マーチの中から「あるきましょう」「はしりましょう」</p> <p>第23回：ブルグミュラー 25の練習曲 No.2 童謡 マーチの中から「おとのマーチ」</p> <p>第24回：ブルグミュラー 25の練習曲 No.3 童謡 マーチの中から「おともだち」「オリンピア・マーチ」</p> <p>第25回：ブルグミュラー 25の練習曲 No.4 童謡 マーチの中から「お料理行進曲」</p> <p>第26回：ブルグミュラー 25の練習曲 No.5 童謡 マーチの中から「かけっこマーチ」「かけあしマーチ」</p> <p>第27回：ブルグミュラー 25の練習曲 No.6 童謡 マーチの中から「カレンダーマーチ」</p> <p>第28回：ブルグミュラー 25の練習曲 No.7 童謡 マーチの中から「きれいな小川」「子供の世界」</p> <p>第29回：ブルグミュラー 25の練習曲 No.8 童謡 マーチの中から「小犬のマーチ」「なかよしマーチ」</p> <p>第30回：ブルグミュラー 25の練習曲 No.9 童謡 マーチの中から「バースデイ・マーチ」「パレードマーチ」</p> <p>※ 個人指導を含む為、同様の範囲を示しているが内容は個々の進度によって異なる。</p>			
テキスト			
<p>ドレミ出版社 「こどもの歌名曲アルバム」、聖ヶ丘教育福祉専門学校発行「童謡曲集」・「マーチ曲集」</p> <p>全音出版社 「全訳バイエルピアノ教則本」、全音出版社 「ブルグミュラー 25の練習曲」</p>			
参考書・参考資料等			
<p>幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)</p>			
学生に対する評価			
【出欠席の確認】			
授業の最初に点呼をとる。各自のレッスン開始時間に不在の場合は、遅刻・早退・または欠席として扱う。			
実技試験 100%			
60～69点を「可」・70～79点を「良」・80点以上を「優」として単位を認定する。			
なお、本校の感染警戒レベルの変動により受講方法に差異が生じた場合でも、成績評価には影響しない。			

授業科目名： 音楽Ⅱ	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 2単位 (演習)	担当教員名： 野戸智美／他17名
			配当学年：二部2年
			担当形態：単独、クラス分け
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目（領域に関する専門的事項）		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（保育内容の理解と方法）		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>1 保育の場で必要とされる、総合的な音楽の基礎力を学び身につける。</p> <p>2 主にピアノを媒介として、鍵盤楽器奏法の基本と童謡歌曲等の伴奏法並びに弾き歌いの力を養成する。</p>			
授業の概要			
<p>1 本校独自の音楽グレード制をベースに、最低目標値をバイエル終了程度とする。</p> <p>2 年間10回程度のグレード検定試験を設定し、個々のペースにあわせて受験する。</p>			
授業計画			
<p>第1回：ガイダンス ピアノ学習の目的と心構え ピアノ担当教員紹介 グレード設定の確認。</p> <p>第2回：ブルグミュラーNo.1.2 童謡弾き歌い レガート奏法 スタッカート奏法の説明。</p> <p>第3回：ブルグミュラーNo.1.2 童謡弾き歌い レガート奏法 スタッカート奏法の確認。</p> <p>第4回：ブルグミュラーNo.3.4 童謡弾き歌い メロディーの歌い方 3度奏法の説明。</p> <p>第5回：ブルグミュラーNo.3.4 童謡弾き歌い メロディーの歌い方 3度奏法の確認。</p> <p>第6回：ブルグミュラーNo.5.6 童謡弾き歌い 連続する16分音符や左右の手での10度並進行の奏法と説明。</p> <p>第7回：ブルグミュラーNo.5.6 童謡弾き歌い 連続する16分音符や左右の手で10度の並進行をバランスよく弾く。</p> <p>第8回：ブルグミュラーNo.7.8 童謡弾き歌い 右第1指で弾く保持音奏法についての説明。</p> <p>第9回：ブルグミュラーNo.7.8 童謡弾き歌い 装飾音符についてと第8回の振り返り。</p> <p>第10回：ブルグミュラーNo.9.10 童謡弾き歌い 長い曲になれる。</p> <p>第11回：ブルグミュラーNo.9.10 童謡弾き歌い 第10回の振り返りと確認。</p> <p>第12回：ブルグミュラーNo.1～No.10の中から任意で2曲選択・音の確認 童謡弾き歌い。</p> <p>第13回：ブルグミュラーNo.1～No.10の中から任意で2曲選択・奏法の確認 童謡弾き歌い。</p> <p>第14回：ブルグミュラーNo.1～No.10の中から任意で2曲選択・強弱のバランス確認 童謡弾き歌い。</p> <p>第15回：ブルグミュラーNo.1～No.10の中から任意で2曲選択・暗譜 童謡弾き歌い。（5グレード）</p> <p>第16回：ブルグミュラーNo.11.12 童謡弾き歌い 上行・下行の動きや両手同時のスタッカート、3連符。</p> <p>第17回：ブルグミュラーNo.11.12 童謡弾き歌い、確認。</p> <p>第18回：ブルグミュラーNo.13.14 童謡弾き歌い トリル 装飾音符について説明。</p> <p>第19回：ブルグミュラーNo.13.14 童謡弾き歌い、確認。</p> <p>第20回：ブルグミュラーNo.15.16 童謡弾き歌い 和音のバランスや左右のバランス。</p> <p>第21回：ブルグミュラーNo.15.16 童謡弾き歌い、確認。</p> <p>第22回：ブルグミュラーNo.17.18 童謡弾き歌い 連打や16分音符の意識。</p> <p>第23回：ブルグミュラーNo.17.18 童謡弾き歌い、確認。</p> <p>第24回：ブルグミュラーNo.19.20 童謡弾き歌い ペダルでの和音のレガート奏法 音価。</p> <p>第25回：ブルグミュラーNo.19.20 童謡弾き歌い、確認。</p> <p>第26回：ブルグミュラーNo.11～No.25の中から任意で2曲選択・音の確認 童謡弾き歌い</p> <p>第27回：ブルグミュラーNo.11～No.25の中から任意で2曲選択・奏法の確認 童謡弾き歌い</p> <p>第28回：ブルグミュラーNo.11～No.25の中から任意で2曲選択・強弱のバランス確認 童謡弾き歌い</p> <p>第29回：ブルグミュラーNo.11～No.25の中から任意で2曲選択・全体の纏まりと速度 童謡弾き歌い</p> <p>第30回：ブルグミュラーNo.11～No.25の中から任意で2曲選択・暗譜 童謡弾き歌い</p> <p>※ 個人指導を含む為、同様の範囲を示しているが内容は個々の進度によって異なる。</p>			
テキスト			
<p>ドレミ出版社 「こどもの歌名曲アルバム」、聖ヶ丘教育福祉専門学校発行「童謡曲集」・「マーチ曲集」</p> <p>全音出版社 「全訳バイエルピアノ教則本」、全音出版社 「ブルグミュラー 25の練習曲」</p>			
参考書・参考資料等			
<p>幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)</p>			
学生に対する評価			
【出欠席の確認】			
授業の最初に点呼をとる。各自のレッスン開始時間に不在の場合は、遅刻・早退・または欠席として扱う。			
実技試験 100%			
60～69点を「可」・70～79点を「良」・80点以上を「優」として単位を認定する。			
なお、本校の感染警戒レベルの変動により受講方法に差異が生じた場合でも、成績評価には影響しない。			

授業科目名： 音楽Ⅲ	学則に定める必修/選択の別 選択科目	単位数： 2単位 (演習)	担当教員名：野戸智美
			配当学年：二部1年
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目（領域に関する専門的事項）		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（保育内容の理解と方法）		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ 保育者にとって音楽は基礎科目の必修である。音楽表現を高めると共に、音楽理論を含めた様々な音楽を体験し、保育楽器を使って学生みずから体感できるように指導する。			
授業の概要 ソルフェージュ（楽譜の基礎・楽典）・器楽合奏・歌唱・手遊び			
授業計画 第1回：ガイダンス 音楽理論の意味と楽典の内容及び授業方針の概要の説明 第2回：楽典（譜表と音名）校歌 附属幼稚園園歌 あいさつのうたの歌唱 手遊び① 第3回：楽典（音符と休符）春の歌の歌唱と演奏 手遊び① 第4回：楽典（音符と休符）春の歌の歌唱と演奏 手遊び② 第5回：楽典（リズムと拍子）夏の歌の歌唱と演奏 手遊び② 第6回：楽典（奏法と曲想）夏の歌の歌唱と演奏 手遊び③ 第7回：楽典（奏法と曲想）秋の歌の歌唱と演奏 手遊び③ 第8回：楽典（音階）秋の歌の歌唱と演奏 手遊び④ 第9回：楽典（和音）冬の歌の歌唱と演奏 手遊び④ 第10回：楽典（コードネーム伴奏法）冬の歌の歌唱と演奏 第11回：楽典（コードネーム伴奏法） 第12回：楽典（コードネーム伴奏法） 幼児の器楽合奏① 第13回：幼児の器楽合奏② 第14回：幼児の器楽合奏③ 第15回：前期試験 及び前期の振り返り授業			
テキスト 「こどもの歌 名曲アルバム」 ドレミ楽譜出版社 「新・たのしい子どものうたあそび-現場で活かせる保育実践- 第2版」 木村鈴代編 同文書院			
参考書・参考資料等 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)			
学生に対する評価 【成績評価】 筆記試験 50% 合奏・手遊び 40% 受講状況 10% 60～69点を「可」・70～79点を「良」・80点以上を「優」として単位認定する。			

授業科目名: 図画工作 I	学則に定める必修/選択の別 必修科目	単位数: 1 単位 (演習)	担当教員名:羽田顕佑 配当学年:二部1年 担当形態:単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目(領域に関する専門的事項)		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目(保育内容の理解と方法)		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ 保育における造形活動の主たる意義は、活動過程で生じる主体の変容(子どもの発達)を見取り、状況に適した支援を行う点にある。本授業では、①素材との触れ合いを通して想像力を触発するさまや造形活動の楽しさ・喜びを体験的に学び、また②素材・用具の扱いに関わる幼児の発達段階を理解することで、造形活動における構想上の留意点や支援の在り方について考察する能力を習得することを目指す。			
授業の概要 一般的に用いられる素材や用具の特性を理解するための作品制作活動および実践的な造形遊びを演習として行う。基本的な扱い方を理解しながら自分なりの表し・工夫を行い、また他者との協働や相互の表現を認め合うことで、個々の世界の広がりを獲得してほしい。いずれの活動においても、素材との触れ合いによって得られる感情や身体感覚への気づきが学びの第一歩である。振り返り記述および最終試験を通じて自身の体験を省察する学習プロセスを築く。			
授業計画 第1回:【講義】ガイダンス…授業の趣旨、求める姿勢・評価について 第2回:【演習】画用紙と用具の扱いについて…画用紙/パペット作り①画用紙の質感変化を感じる 第3回:【演習】画用紙と用具の扱いについて…画用紙/パペット作り②用具と描画材の工夫 第4回:【演習】作品鑑賞会・講評 第5回:【演習】描画材と支持体の特性理解…クレヨン、クレパス①(色の基本要素について) 第6回:【演習】描画材と支持体の特性理解…クレヨン、クレパス②(組成を活用した遊び) 第7回:【演習】描画材と支持体の特性理解…色鉛筆、マーカーペン(組成を活用した遊び) 第8回:【演習】絵の具による遊び、技法(雑材の用具としての活用) 第9回:【演習】雑材の活用①緩衝材による遊び 第10回:【演習】雑材の活用②モビール制作 第11回:【演習】立体素材による表現…粘土①素材の呼应性を感じる 第12回:【演習】立体素材による表現…粘土②芯材を利用した造形 第13回:【演習】立体素材による表現…粘土③作品の仕上げ 第14回:【講義】作品鑑賞会・講評/制作振り返り 第15回:【講義】まとめ:造形活動における主体と素材とのかかわり/最終試験			
テキスト 特になし。各回の内容に応じたプリント資料を使用する。			
参考書・参考資料等 『造形のじかん』作善圭編著、愛智出版、2013 『保育をひらく造形表現』榎英子、萌文出版、2008 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省) 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)			
学生に対する評価 【評価配点】1. 授業への取り組み(10%) 2. 成果物・記録(40%) 3. 最終試験(50%)			

授業科目名: 図画工作Ⅱ	学則に定める必修／選択の別 選択科目	単位数: 1単位 (演習)	担当教員名:羽田顕佑 配当学年:二部2年 担当形態:単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目(領域に関する専門的事項)		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目(保育内容の理解と方法)		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ ・乳幼児の心身発達と造形活動との関連、及び、造形の発達段階について学習する。 ・造形活動で使用する教材や素材・用具についての知識を、体験を通して習得する。 ・年齢や発達に合わせた教育課題が考えられるようになることを目指す。 ・表現領域のひとつとしての、造形教育がもつ目的や意味について理解する。			
授業の概要 造形活動の主体となる子どもの心情や体性感覚を追体験的に学ぶことで、「描く・作る」活動を通して何を育むのかという教育的目的を明確に考える実践的姿勢を培ってゆく。 表現を通して育まれる心身の発達が子どもの人格・概念形成に関わる大きな要素であることを理解し、また年齢や発達を考慮した課題設定などについて、実技体験により具体的な方法を学習する。			
授業計画 第1回:【講義】ガイダンス…授業の趣旨、概要、求める姿勢、評価について 第2回:【講義】人間の発達的特質…生活に内包される造形を通して 第3回:【講義】人間の心身発達の段階(手と言語の能力を中心に)映像教材の鑑賞 第4回:【講義・演習】描画と思考の発達(青年期に至るまでのプロセス)造形による教育の目的 第5回:【演習】描画発達段階の追体験①手と目の照応作用の確認 第6回:【演習】描画発達段階の追体験②身体能力に着目して 第7回:【演習】描画発達段階の追体験③知覚能力に着目して 第8回:【演習】発達と個性を捉える理論と実践①芸術療法の理論 第9回:【演習】発達と個性を捉える理論と実践②芸術療法の体験と省察 第10回:【講義】造形活動の教育・養護的效果について 第11回:【演習】紙素材による制作①切り紙遊び(手の能力と造形思考) 第12回:【演習】紙素材による制作②お弁当制作(生活のイメージと造形思考) 第13回:【演習】新聞紙による制作…クリスマスリース作り 第14回:【演習】作品鑑賞会・講評 第15回:【講義】まとめ 造形による教育の基本的視座			
テキスト 特になし。各回の内容に応じたプリント資料を使用する。			
参考書・参考資料等 『造形のじかん』作善圭編著、愛智出版、2013 『保育をひらく造形表現』榎英子、萌文出版、2008 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省) 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)			
学生に対する評価 【評価配点】1. 授業への取り組み(10%) 2. 成果物・記録(40%) 3. 小テスト・レポート課題(50%)			

授業科目名： 体育	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 1単位 (演習)	担当教員名：細谷美碧 配当学年：二部3年 担当形態：単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目（領域に関する専門的事項）		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（保育内容の理解と方法）		
担当教員の実務経験	—		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>健康と安全について考え、適切な運動をすることを通して体力を養い、柔軟性を身につけ自身の健康保持、向上を図り、心と身体の一部として楽しく明るく生活ができ、コミュニケーション能力の向上を目的とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>身体を使う、身体を動かす、その為の基礎体力を身に付け、心身ともに健康や安全に留意し、自分自身で積極的に取り組む。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：基礎柔軟体操 説明 第2回：基礎柔軟体操 実践 第3回：応用柔軟体操 実践 第4回：基本ステップ 第5回：応用ステップ 第6回：手・腕の動作（ポーズ） 第7回：足・脚の動作（ポーズ） 第8回：手・足組み合わせ動作（ポーズ） 第9回：ステップを組ませた動作 第10回：曲に合わせた振り付けの説明 第11回：振り付けに対しての細やかな指導 第12回：振り付けを体得する 第13回：発表までの振り付けの完成を目指す 第14回：試験を受ける為の基礎・応用の確認指導 第15回：試験・授業</p>			
<p>テキスト</p> <p>なし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>「幼児のリズム体操集（保育実用書シリーズ）」松本民子、チャイルド社</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>実技試験100%</p> <p>授業の最初と最後にチャットの書き込みを求める。書き込みのないものは遅刻・早退または欠席として扱う。</p>			

授業科目名： 体育 I	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 2単位 (講義・実技)	担当教員名：渡辺潤一
			配当学年：二部2年
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	一般教養科目		
保育士養成課程の区分	教養科目（体育）		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ 体育実技及び保健体育やレクリエーション実技を通して自身の状況を把握し、自らが（保育者としても）健康の保持増進を図ることと、良好な人間関係を作るためのコミュニケーションスキルの向上を目的とする。さらに保育の現場において子どもたちに対し、実践できるレクリエーション財の技術を習得することも目的とする。			
授業の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・各種スポーツやレクリエーション財を通して、レクリエーションダンス等の軽い運動や手遊び等を楽しみ、自らが基礎体力と心身共により豊かな生活を過ごす力を養えるよう援助を行う。また、生涯スポーツのきっかけとなるような様々なプログラムに取り組む。 ・レクリエーション指導法・保健体育についての基本的知識・技術を学ぶ。 			
授業計画 第1回：授業概要、レクリエーション実技習得と効果 第2回：幼児期における運動の意義、レクリエーション実技等の習得 第3回：幼児期における運動の意義、レクリエーション実技等の習得 第4回：幼児期における基本的な動き、レクリエーション実技等の習得 第5回：幼児期における一般的な運動の発達の特性と経験しておきたい遊び（動き）、体育・レクリエーション実技の習得 第6回：幼児期の運動の行い方と留意事項、体育・レクリエーション実技の習得 第7回：子どもの応急手当と実際、体育・レクリエーション実技の習得 第8回：子どもの応急手当と実際、体育・レクリエーション実技の習得 第9回：運動をする際の目安、体育・レクリエーション実技の習得 第10回：保健体育・体育理論、体育・レクリエーション実技の習得 第11回：保健体育・体育理論、体育・レクリエーション実技の習得 第12回：保健体育・体育理論、体育・レクリエーション実技の習得 第13回：保健体育・体育理論、体育・レクリエーション実技等の習得 第14回：課題レポート作成、体育・レクリエーション実技の習得 第15回：課題レポート作成と提出、体育・レクリエーション実技の習得			
テキスト 指定しない。			
参考書・参考資料等 必要に応じて、適宜資料配布を行う。			
学生に対する評価 ① 授業への取り組み：40％ ② 課題レポート等：30％ ③ 実技試験：30％			

授業科目名： 国語	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 2単位 (講義)	担当教員名： 加藤磨理子 配当学年： 二部3年 担当形態： 単独
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	—		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ この授業では保育の現場に携わるにあたって、領域それぞれの学問的背景や基盤となる考え方を学ぶ。具体的には日本語で書かれた文章の読解、表現方法を正確に理解する。また保育者が幼児と関わる上で重要な要素となる「読み聞かせ」「おはなし」のねらい、文化的背景を理解し、実践的なアプローチ方法を学ぶ。			
授業の概要 前半ではテキスト『保育者になるための国語表現』を利用して、保育者として必要最低限の会話、読み書きのルール、一般教養を身に着ける。また、毎授業ごとに、童話『ちいさいモモちゃん』の読解の時間を設け、読書習慣をつける。後半ではその他の絵本、児童文学を参照にしつつ、子どもの成長における物語の関わり方についてを学ぶ。授業期間中に適宜、課題やリアクションペーパーの提出を行う。			
授業計画 第1回：授業概要、自己紹介 第2回：基本の挨拶と敬語／物語の始まり、命の誕生 第3回：実習先にて（自己紹介と実習先でのマナー）／物語の中の「保育園」 第4回：保育現場での話し方、子どもへの言葉かけ／食べ物、食事を描いた物語 第5回：就職面接／親子の関係、子どもの不満を描いた作品 第6回：演習①短い物語を作ろう『今まででいちばん楽しい日』 保育者自身の体験を元に、物語の基本構成と発想方法を学ぶ 第7回：保護者対応、電話／繰り返し言葉、歌の効果的な使い方 第8回：正しく書こう／限りある人生「老い」と「死」 第9回：文章の基本／病院と注射、物語の中のさらに想像の世界 第10回：演習②短い物語を作ろう『〇〇ちゃんの物語』 子どもへの語り聞かせを想定した物語の構成と発想方法を学ぶ 第11回：実習日誌と指導計画／叱られる体験 第12回：手紙とメールのマナー／`得体のしれないもの、への恐怖と関心 第13回：履歴書の書き方／戦争と大人の憂鬱 第14回：連絡帳の書き方／妹（弟）が生まれる！ 第15回：まとめと試験			
テキスト 『保育者になるための国語表現』（田上貞一郎著 萌文書林）			
参考書・参考資料等 『ちいさいモモちゃん』（松谷みよ子著 講談社文庫）			
学生に対する評価 筆記試験60%、授業への積極性40%（演習①、演習②で取り組む課題の完成度を中心に評価する。評価の際は創作作品としての斬新さではなく、授業内で指示した要件を満たす作品を作成することができたかどうかに着目する）			

授業科目名： 保育原理I	学則に定める必修/選択の別 必修科目/選択科目 必修	単位数： 2単位 (講義)	担当教員名：鈴木 敦
			配当学年：二部1年
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	—		
担当教員の実務経験	—学校法人立幼稚園（金沢区）教諭として実務経験（担任含）15年副園長として8年。社会福祉法人（金沢区）の新規法人設立および保育所設立を担当し、同施設副施設長として実務経験8年。現在社会福祉法人理事。2019年4月、学校法人立幼稚園が認定こども園に移行、園長に就任。横浜市立並木中央小学校放課後キッズクラブ運営法人（社会福祉法人）担当理事も務めている。		
授業の到達目標及びテーマ 保育の本質を探究し保育に関連する授業を通して学んだことを基礎に保育についてその意義や保育内容の方法について理解を深める。			
授業の概要 幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園の現状、こどもの姿や保護者の姿が分かるよう具体的な事例や映像資料を通し「保育とは何か」について学び、保育を実践していくために必要とされている保育者としての視点や援助について課題を見出し、学びを深めることが出来るようにする。各回授業学習課題として各回授業の到達目標について予習（自分の考えをまとめる）を行い復習として授業を通して学んだことをノート等にまとめる。			
授業計画 第1回 「シラバス」に基づき全講義内容について説明する。 第2回 保育とは何か（1）幼稚園と保育所の比較。 第3回 保育とは何か（2）幼保連携型認定こども園について学ぶ。 第4回 保育の歴史から学ぶ。 第5回 環境を通しての保育について学ぶ。 第6回 「あそび」と「学び」について学ぶ。（あそびを通して育つ力、育てなくてはならない力について探究する） 第7回 幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園の現状と課題。 （1）幼稚園の現状と課題 第8回 幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園の現状と課題。 （2）保育所の現状と課題 第9回 幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園の現状と課題。 （3）なぜ幼保連携型認定こども園ができたのか 第10回 保育の計画と保育の方法の実践 第11回 「こども」と「環境」の関りについて学ぶ。 第12回 危機管理について学ぶ。 第13回 こどもにとって望ましい保育者となるため必要な資質について考察する。 第14回 第1回から第13回までの授業のまとめ 第15回 期末試験および解答解説。			
テキスト 指定しない			
参考書・参考資料等 保育原理（大学図書出版） 幼稚園教育指導要領（平成29年度告知版）、保育所保育指針（平成29年度告知版）、幼保連携型認定こども園教育保育指導要領（平成29年度告知版）			
学生に対する評価 期末テストまたは課題に対するレポート60%、リアクションペーパー20%、提出物20%			

授業科目名： 保育原理Ⅱ	学則に定める必修／選択の別 選択科目	単位数： 2単位 (講義)	担当教員名：竹内 あゆみ 配当学年：二部2年 担当形態：単独
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	保育の本質・目的に関する科目		
担当教員の実務経験	幼稚園教諭（3年）		
授業の到達目標及びテーマ 保育原理Ⅰの学びを踏まえ、保育の歴史、思想および実践的な原理を理解し、保育職の意義の理解を深める。また、保育の内容構成や基本方針を理解し、現代における保育の在り方と、保育現場に求められている内容について理解する。			
授業の概要 保育原理Ⅰで学んだ基礎的な事項を基盤として、保育の歴史・思想及び今日的な保育政策の動向について理解する。保育の内容と方法について、乳幼児の発達を学びながら保育者に求められる考え方や態度について考えるとともに、自分の言葉で説明できる力を身につける。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、この授業で学ぶこと 第2回：子ども理解から始まる保育 ～倉橋惣三「育ての心」を読み解く～ 第3回：子ども主体の保育とは何か 第4回：保育所保育指針における保育の基本① 環境を通して行う保育 第5回：保育所保育指針における保育の基本② 養護と教育の一体 第6回：子どもの発達と保育 第7回：これからの幼児教育に求められること 第8回：子育て支援の種類と内容 第9回：現代日本の保育施策と保育の制度 第10回：保育の指導計画① 保育記録の種類と内容 第11回：保育の指導計画② ドキュメンテーションの作成 第12回：保育の指導計画③ エピソード記録の分析 第13回：DVD視聴「モンテッソーリこどもの家」 第14回：見守る保育の意味と課題 ※第13回の授業の振り返り 第15回：総まとめ、定期試験			
テキスト 『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示 文部科学省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）『保育所保育指針』（平成29年3月告示 厚生労働省）			
参考書・参考資料等 プリント・資料を配布する。			
学生に対する評価：定期試験（50％）、提出物（30％）、授業への取り組み（20％） 備考） ・毎回の授業内で事前学習内容を提示するので教科書の指定箇所を熟読すること。（2時間） ・毎回の授業内で事後学習内容を提示するので配布プリント等の課題を考えること。（2時間） ・毎回の授業内でGoogleフォームを使用したリフレクションシートを記入して提出すること。 それを踏まえ、翌週の授業で振り返りを行い、全体にフィードバックする。			

授業科目名： 教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位 (講義)	担当教員名：辻和希 配当学年：二部1年 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ ・教育の歴史・教育の思想に関する歴史の変遷について理解している。 ・学校を取り巻く社会的・政治的・経済的状况について理解している。 ・現代の教育の諸課題について自分の言葉で説明することができる。			
授業の概要 本授業では、「教育とは何か」を思想・歴史・制度の側面から学んでいく。受講生には、積極的に授業に参加することを求める。授業では、教科書・教員の言葉を鵜呑みにせず、批判的に吟味し、自分なりの教育観を構築して行ってほしい。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 教育とは何か 第2回：教育の目的（公教育と私教育の分類） 第3回：教育と人の発達 第4回：西洋における教育思想（古代） 第5回：西洋における教育思想（前近代） 第6回：西洋における教育思想（近代以後） 第7回：日本における教育思想（明治～昭和初期） 第8回：日本における教育思想（戦時下・戦後） 第9回：日本における学校教育制度の成立とその意義 第10回：日本の学校教育制度の現在 第11回：欧米の学校教育制度 第12回：生涯学習社会 第13回：現代日本における教育の課題 第14回：現代日本における教育の動向 第15回：本授業のまとめ 定期試験			
テキスト 教科書は使用しない。必要に応じて、資料を配布する。			
参考書・参考資料等 ① 『幼稚園教育要領解説書』 文部科学省 ② 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府・文部科学省・厚生労働省			
学生に対する評価 ① 定期試験（60%）、②レポート（30%）③コメントシート（10%）			

授業科目名： 子ども家庭福祉	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 2単位 (講義)	担当教員名：蠣崎尚美
			配当学年：二部3年
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	保育の本質・目的に関する科目（「子ども家庭福祉」）		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ			
1 子ども家庭福祉についての基本的理念について学ぶ。 2 子ども家庭福祉施策及びとりまく諸状況の変化について学ぶ。 3 子ども家庭福祉に関わる社会の仕組みや法律・制度について体系的に学ぶ。			
授業の概要			
子ども家庭福祉とは何かから始まり、その歴史や子どもの人権擁護などについての理解を深める。また、子どもをめぐるさまざまな問題を取り上げ、保育者として必要な子ども家庭福祉の知識を探究する。			
授業計画			
第1回：子ども家庭福祉の理念と概念			
第2回：子どもの権利保障			
第3回：子ども家庭福祉の歴史の変遷、諸外国の動向			
第4回：子ども家庭福祉の展開			
第5回：児童福祉法の成立と改正			
第6回：子ども家庭福祉等機関・地域活動			
第7回：子ども家庭福祉サービス・養護			
第8回：子ども家庭福祉サービス・障害			
第9回：子ども家庭福祉行政の仕組み			
第10回：母子保健と子どもの健全育成			
第11回：多様な保育へのニーズ			
第12回：子ども福祉サービスの実際／障害			
第13回：子ども福祉サービスの実際／ひとり親			
第14回：子ども福祉サービスの実際／里親			
第15回：ふりかえりと試験			
テキスト	保育と子ども家庭福祉 櫻井奈津子 編 株式会社みらい		
参考書・参考資料等	保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）		
学生に対する評価	筆記試験90% 授業態度10%		

授業科目名： 社会福祉	学則に定める必修／選択の別 必修	単位数： 2単位 (講義)	担当教員名：亀田良克 配当学年：二部2年 担当形態：単独
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	保育の本質・目的に関する科目（「社会福祉」）		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における社会福祉の意義、歴史ならびに子ども家庭支援の視点について理解する。 ・社会福祉制度及びその実施体系について理解する。 ・社会福祉における相談援助について理解する。 ・社会福祉における利用者保護に関わる仕組みについて理解する。 ・社会福祉の動向と今後の課題について考究できる姿勢を構築する。 			
授業の概要 <p>社会福祉の意義、理念、歴史、制度、体系等の社会福祉の基礎を学ぶとともに、子ども家庭支援の視点を身につける。また、相談援助に関する理論や方法等の学習を通して、福祉サービス利用者を適切かつ円滑に支援するための態度や行動の基礎を培う。そして、学んだ知識や技術を土台に、さまざまな社会福祉が抱える問題や課題について探求していきます。</p> <p>以上の内容を講義中心に展開していきますが課題へ取り組む時間も設けます。毎授業終了時に次回の講義内容をお伝えしますので、テキストの該当箇所を事前に読むなどして次回の授業に臨んで下さい。授業後には、定期試験に向けてポイントをまとめておきましょう。</p>			
授業計画 <p>第1回：社会福祉の理念と歴史の変遷 第2回：子ども家庭支援と社会福祉 第3回：社会福祉の制度と法体系 第4回：社会福祉行財政と実施機関・社会福祉施設等 第5回：社会福祉の専門職 第6回：社会保障および関連制度の概要 第7回：相談援助の理論、相談援助の意義と機能 第8回：相談援助の対象と過程 第9回：相談援助の方法と技術 第10回：社会福祉における利用者保護の仕組み 第11回：少子高齢化社会における子育て支援 第12回：共生社会の実現と障害者施策 第13回：在宅福祉・地域福祉の推進 第14回：諸外国の社会福祉の動向 第15回：まとめと試験</p>			
テキスト <p>「社会福祉 新・基本保育シリーズ④」監修 公益社団法人 児童育成協会、松原康雄・朴洋一・金子充編、中央法規出版、2019</p>			
参考書・参考資料等 <p>保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領</p>			
学生に対する評価 <p>定期試験（80％）、課題（20％）</p>			

授業科目名： 子ども家庭支援論	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 2単位 (講義)	担当教員名：坂吉美代 配当学年：二部2年 担当形態： 単独
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	保育の本質・目的に関する科目 (「子ども家庭支援論」)		
担当教員の実務経験	保育士(保育所：23年) 園長(保育所：16年)		
授業の到達目標及びテーマ ① 家庭環境の変化、子育てをめぐる様々な問題を見ながら、支援の意義・目的を理解する。 ② 保育の専門性を生かした家庭支援、保育士に求められる基本的態度を理解して説明できるようにする。 ③ 支援の体制(国の施策・地域における社会資源)について学び、保育士の担う支援の理解を深める。 ④ 状況に応じた多様な支援(内容や対象)を考え、支援内容によっては専門機関との連携の重要性を理解する。また、子ども家庭支援の現状、課題についても理解する。			
授業の概要 ・家庭とは何か、支援とは何かを、すべての子ども達が子どもらしく生き生きと生活できるよう、保育の専門性を生かした支援、保育士として求められる基本的態度を知り、子ども家庭支援を捉える。支援の体制(社会資源、支援施策)、多様な支援の展開と関係機関との連携等、具体的な事例を通して保育の視点を考え論じる。			
授業計画 第1回：子ども家庭支援の意義と役割を知る。(家族・家庭とは、子ども、家庭をめぐる環境と現状) 第2回：保育士による子ども家庭支援の意義と基本 ① 保育の専門性を生かした実践の支援を知る。 第3回： // ② 子どもの育ちを保護者と共有する具体的な支援を知る。 第4回： // ③ 保護者の子育てを自ら実践する力の支援を考える。 第5回： // ④ 保育士に求められる基本的態度を知り具体的に説明できる。 第6回： // ⑤ 家庭の状況に応じた支援、「保育所保育指針 第4章」を理解する。 第7回：子育て家庭に対する支援体制(社会資源)を知る。 第8回：子育て家庭に対する支援体制(支援施策)を知る。 第9回：多様な支援の展開と関係機関との連携 ① 支援の内容と対象を知る。 第10回： // ② 保育所を利用している子育て家庭への支援について、保護者との相互理解・信頼関係・気づきを考える。 第11回： // ③ 状況に配慮した個別支援について、事例を通して保育の実践を考える。(障害や発達上の課題のある子ども・病気の子ども・外国籍家庭・ひとり親家庭・貧困・ステップファミリー) 第12回： // ④ 要保護児童の家庭について、事例を通して支援の対応を知る。(不適切な養育・虐待) 第13回： // ⑤ 地域の子育て家庭への支援について知る。 第14回：子ども家庭支援に関する現状と課題を知る。(制度・行政上の仕組み) 第15回：授業の振り返りまとめ・期末試験			
テキスト 『最新 保育士養成講座 第10巻 子ども家庭支援』 全国社会福祉協議会			
参考書・参考資料等 幼稚園教育要領 (平成29年3月告示 文部科学省) 保育所保育指針 (平成29年3月告示 厚生労働省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)			
学生に対する評価 期末試験もしくはレポート提出(80%)、授業態度(20%)で総合的に評価する。			

授業科目名： 社会的養護 I	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 2単位 (講義)	担当教員名：蠣崎尚美
			配当学年：二部2年
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	保育の本質・目的に関する科目（「社会的養護 I」）		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ			
1 社会的養護が必要になる養護問題について理解する。 2 社会的養護の体系、歴史的展開、地域の役割を理解する。 3 子ども家庭福祉の理念と児童福祉施設の養護の実際を理解する。 4 児童福祉施設の援助者の役割を知る。			
授業の概要			
現代の社会的養護の制度や実施体系について理解する。そして、歴史、原理、人権問題など実際の児童養護施設現状と課題に理解を深め、社会的養護の対象や専門職について理解する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション 社会的養護の理念と概念			
第2回：現代社会と児童福祉、社会的養護の基本原則			
第3回：権利主体としての児童（子どもの人権擁護）			
第4回：社会的養護の歴史			
第5回：児童養護の体系（施設、里親、グループホーム等）			
第6回：社会的養護の制度と法体系			
第7回：施設養護と家庭養護			
第8回：施設養護の基本原則 子どもの最善の利益			
第9回：施設養護の実際 施設の日常生活、自立支援 ビデオ視聴 『児童養護施設』			
第10回：施設養護の実際 治療的・支援的援助 ビデオ視聴 『医療型障害児入所施設』			
第11回：社会的養護に関わる専門職（児童相談所、関係機関、家庭等）			
第12回：被措置等の虐待防止			
第13回：児童福祉施設の援助者としての資質・倫理			
第14回：社会的養護の目指す方向、地域福祉 ビデオ視聴 『ぼっちゃん 元保護司の活動』			
第15回：授業のまとめ・定期試験			
テキスト	「社会的養護」喜多一憲監修 堀場純矢編集 みらい		
参考書・参考資料等	保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）		
学生に対する評価	筆記試験80%、参加態度10%、課題10%		

授業科目名： 教職概論	学則に定める必修／選択の別 必修	単位数： 1単位 (演習)	担当教員名：古谷淳
			配当学年：二部2年
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	教育の基礎的理解に関する科目（教職の意義及び教員の役割、教務内容（チーム学校への対応を含む。））		
保育士養成課程の区分	保育の本質・目的に関する科目（「保育者論」）		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ 保育者の役割と倫理について理解する。 保育士の専門性について考察し、理解する。			
授業の概要 保育者の連携・協働について理解する。 保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。			
授業計画 第1回： 保育者になるということ 第2回： 子どもとつくる0歳児保育① 0歳児前半目の前の「ヒト」「モノ」に気づくころ 第3回： 子どもとつくる0歳児保育② 「三項関係」の成立 第4回： 子どもとつくる1歳児保育① 1歳児の発達課題と保育実践の課題 第5回： 子どもとつくる1歳児保育② 2歳児クラスに向けての発達課題と保育実践の課題 第6回： 子どもとつくる2歳児保育① 2歳児の発達課題と保育実践の課題 第7回： 子どもとつくる2歳児保育② 「自分」と「他人」の発見 第8回： 子どもとつくる3歳児保育① 3歳児の発達課題と保育実践の課題 第9回： 子どもとつくる3歳児保育② 3歳児クラスの実践と展開 第10回： 子どもとつくる4歳児保育① 4歳児の発達課題と保育実践の課題 第11回： 子どもとつくる4歳児保育② 4歳児クラスの実践と展開 第12回： 子どもとつくる5歳児保育① 5歳児の発達課題と保育実践の課題 第13回： 子どもとつくる5歳児保育② 5歳児クラスの実践と展開 第14回： 子どもとともにつくりあげる保育に向けて 第15回： まとめとテスト			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 ノート・ルーズリーフ等を各自で用意する			
学生に対する評価 授業評価20% テスト80%			

授業科目名： 発達心理学 I	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 2単位 (講義)	担当教員名：密城吉夫
			配当学年：二部1年
			担当形態：単独
—	—		
保育士養成課程の区分	保育の対象の理解に関する科目（「保育の心理学」）		
担当教員の実務経験			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 胎芽期から児童期までの発達を科学的な視点でとらえる。 2 発達の段階をたどる過程で、思考の変化や相互作用を児童期に至るまで学習する。 3 発達を時系列でとらえ、子どもの身体的機能と思考を理解する。 			
<p>授業の概要</p> <p>子どもの発達は人的環境や物的環境を通して多様な相互作用の中で行われる。保育士は子どもとの相互作用のみならず、保育者として関わる援助を通して生涯にわたっての発育、成長も考慮しなければならない。発達心理学 I では、受精から誕生、その後の身体発達、精神機能(分化と統合の過程、自我の発達、社会意識)に触れ、発達の特徴や傾向を学んでいく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、テキスト・講義内容の説明、胚期 第2回：胎芽期、胎児期 第3回：遺伝と環境 第4回：心理学の変遷 第5回：視覚の発達、視覚断崖 第6回：感覚間の協応、共鳴動作 第7回：原始反射とメカニズム 第8回：動物実験（刷り込み、条件づけ、学習性無力、愛着）、大きさの恒常性、形の恒常性 第9回：原始反射 第10回：自己認知 第11回：指さし行動（Joint Attention） 第12回：同化と調節、相互作用、感覚的知能の段階、前概念的思考の段階、直観的思考の段階（前半） 第13回：直観的思考の段階（後半） 第14回：具体的操作の段階、形式的操作の段階 第15回：振り返り、試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>繁多進監修、向田久美子・石井 正子編著『新 乳幼児発達心理学』福村出版、2010</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>特になし</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>参加態度（30%）、試験（70%）を総合して判断する。 試験については、60点以上を合格点とする。</p>			

授業科目名： 教育心理学	学則に定める必修/選択の別 必修科目	単位数： 1単位 (演習)	担当教員名：黒石憲洋
			配当学年：二部1年
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	教育の基礎的理解に関する科目（幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程）		
保育士養成課程の区分	学校独自の科目		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ 1. 学習についての歴史的な考え方について理解する。 2. 学習を支える動機づけに関する理論を理解し、子どもの動機づけを高める働きかけや介入の仕方を検討する視点を習得する。 3. 行動における個人差としてのパーソナリティに関する考え方を理解する。 4. 教育における評価のあり方について理解し、その影響について検討する視点を習得する。			
授業の概要 教育を考える上で必要となる心理学の基礎概念・用語について理解するとともに、子どもの発達や成長、学習やその個人差を見極めて支えていく上で必要となる考え方として、心理学的な理論や評価や介入の仕方について学習する。授業方法としては、講義、アクティビティ、グループ・ディスカッション、発表などを組み合わせておこなう。			
授業計画 第1回：ガイダンスとイントロダクション：講義の概要、教育心理学で学ぶこと 第2回：教育とは：教育と保育、教育と学習、遺伝と環境 第3回：学習理論①：行動主義（古典的条件づけとオペラント条件づけ） 第4回：学習理論②：認知主義 第5回：学習理論③：状況主義 第6回：動機づけ理論①：欲求理論、達成動機理論、原因帰属理論、目標理論 第7回：動機づけ理論②：学習性無力感理論、自己効力理論 第8回：動機づけ理論③：認知的評価理論、自己決定理論 第9回：パーソナリティ理論①：類型論的理解 第10回：パーソナリティ理論②：特性論的理解 第11回：パーソナリティ理論③：愛着型とその発達 第12回：教育における評価①：絶対評価、形成的評価、ルーブリックとポートフォリオ 第13回：教育における評価②：教育における認知的バイアス 第14回：新しい学習の形態：協同学習、アクティブラーニング 第15回：試験および全体のまとめ ※前回の授業内容は、次回までにしっかりと理解しておくこと。不明な点については、自主学習や受講生間の協同学習、教員への質問などにより必ず解消しておくこと。			
テキスト テキストは特に使用しない。必要に応じて講義中に資料を配付する。			
参考書・参考資料等 市川伸一（1995）. 学習と教育の心理学 岩波書店 レイブ・ウエンガー（1993）. 状況に埋め込まれた学習：正統的周辺参加 産業図書 スティベック（1990）. やる気のない子どもをどうすればよいか 二瓶社			
学生に対する評価 15回目の講義中に実施する試験において、合格点（100点満点中、60点以上）を満たせば、単位を認定する。			

授業科目名： 子ども家庭支援の心理学	学則に定める必修/選択の別 必修	単位数： 2単位 (講義)	担当教員名：黒石憲洋
			配当学年：二部3年
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	保育の対象の理解に関する科目（「子ども家庭支援の心理学」）		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ 1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題を理解する。 4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。			
授業の概要 主な内容としては、①生涯発達の理論に基づいて各発達段階における発達課題と心理社会的危機について学修する。②家族・家庭の機能に関する社会学的理論に基づいてさまざまな家族・家庭の在り方について検討する。③家族・家庭の問題について因果的な理解を越えてシステム論的な視点からとらえ直しをおこなう。④子どものウェル・ビーイングに影響を与える家族・家庭を含めた社会環境要因を考察する。授業方法としては、講義、グループ・ディスカッション、発表などを組み合わせておこなう。			
授業計画 第1回：ガイダンスとイントロダクション：講義の概要、子ども家庭支援の心理学で学ぶこと 第2回：発達とは：生涯を通じた変化、各発達段階における発達課題と危機 第3回：生涯発達(1)：乳幼児期から幼児期にかけての発達 第4回：生涯発達(2)：児童期から思春期・青年期にかけての発達 第5回：生涯発達(3)：成人期から高齢期にかけての発達 第6回：道徳性の発達 第7回：対人関係の発達 第8回：集団機能の社会学的理解 第9回：家族・家庭の在り方を考える 第10回：システム論とは 第11回：家族・家庭のシステム論的理解 第12回：家族・家庭の発達 第13回：子どもの生活・生育環境としての家族・家庭：虐待・ネグレクト等 第14回：子どものウェル・ビーイングを考える 第15回：まとめと定期試験 ※前回の授業内容は、次回までにしっかりと理解しておくこと。不明な点については、自主学習や受講生間の協同学習、教員への質問などにより必ず解消しておくこと。			
テキスト テキストは特に使用しない。必要に応じて講義中に資料を配付する。			
参考書・参考資料等 吉川悟(編) (1999). システム論からみた学校臨床 金剛出版			
学生に対する評価 15回目の講義中に実施する試験において、合格点(100点満点中、60点以上)を満たせば、単位を認定する。			

授業科目名： 子どもの理解と援助	学則に定める必修/選択の別 必修科目	単位数： 1単位 (演習)	担当教員名：竹内真悟
			配当学年：二部1年
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	生徒指導、教育相談等に関する科目（幼児理解の理論及び方法）		
保育士養成課程の区分	保育の対象の理解に関する科目（「子どもの理解と援助」）		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ (1) 一般目標：幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解する。 到達目標：1) 幼児理解の意義を理解している。 2) 幼児理解から発達や学びを捉える原理を理解している。 3) 幼児理解を深めるための教師の基礎的な態度を理解している。 (2) 一般目標：幼児理解の方法を具体的に理解する。 到達目標：1) 観察と記録の意義や目的・目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を例示することができる。 2) 個と集団の関係を捉える意義や方法を理解している。 3) 幼児のつまずきを周りの幼児との関係やその他の背景から理解している。 4) 保護者の心情と基礎的な対応の方法を理解している。			
授業の概要 幼児が経験する「つまずき」の意味を理解するためには、集団と個の関係、背景にある家庭や地域とのつながり、発達や学びの過程への理解が欠かせない。保育現場における幼児理解の意義を理解し、心理と保育の視点から保育実践を考察し、記録し、共有する方法を身に付ける。			
授業計画 第1回：オリエンテーション：養護及び教育の一体的展開（1）-1） 第2回：子ども理解はなぜ大切か：気になる行動と幼児理解の方法（1）-1）、（1）-2） 第3回：幼児の愛着形成と他者の役割：安全基地と分離不安（1）-2）、（1）-3） 第4回：幼児の認知発達と他者の役割：年齢による遊びの変化（1）-2）、（1）-3） 第5回：幼児を取り巻く世界の広がり：家族関係と援助資源（1）-3）（2）-2）、（2）-4） 第6回：幼児の「つまずき」の意味：子ども理解の様々な視点（1）-3）、（2）-3） 第7回：「つまずき」への対応1：共感的理解の視点から（1）-3）、（2）-3） 第8回：「つまずき」への対応2：客観的理解の視点から（2）-1）、（2）-2）（2）-3） 第9回：理解を深めるための振り返り1：保育場面の観察と記録（2）-1）、（2）-2） 第10回：理解を深めるための振り返り2：PDCAと仮説検証（2）-1）、（2）-2） 第11回：エピソードの捉え方（2）-3）、（2）-4） 第12回：エピソード記録の実際（2）-1）、（2）-2） 第13回：子ども理解を共有する1：ケースカンファレンス（2）-1）、（2）-2） 第14回：子ども理解を共有する2：保護者対応（2）-3）、（2）-4） 第15回：定期試験とまとめ			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省) 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)			
学生に対する評価 毎回の振り返りと課題への取り組み(40%)、試験(60%)によって評価する。 事後学習(2時間)…Google Formで振り返りを提出、事前学習(2時間)…予習課題へ取り組む			

授業科目名： 子どもの保健	教員の免許状取得のための 必須	単位数： 2単位	担当教員名：遠藤 由美子 配当学年：二部3年 担当形態：講義
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	保育の対象の理解に関する科目（「子どもの保健」）		
担当教員の実務経験	—		
<p>授業の到達目標及びテーマ：保育は、子どもの身体的・精神的発達の維持・増進を図る実践活動である。健康な子どもの健やかな成長のその実践活動の基盤に、医学分野である小児保健の知識が必要であることを理解する。また、母子保健も含まれること、子どもの健康は制度によって社会的に守られなければならないこと等を知る。更に、幸せな人間としての成長に携わる保育の基本に子どもの保健があることを学ぶ。</p>			
<p>授業の概要：遠隔授業と対面授業の併用。保育における子どもの保健の位置づけを理解し、健康な子どもを中心に、成長とともに変化する身体と精神の発達を学ぶ。さらに、子どもが罹りやすい病気の対応と予防、先天性疾患、感染症、事故の予測と予防、対応について学び、個々の子どもの健康状態や保健上の問題を判断し適切に対応できる基本的知識を得る。また、子供の保健に関する制度と現状・課題について考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 子どもの健康と保健の意義（生命の保持と母性・父性の育成、健康とは）</p> <p>第2回：健康の概念と健康指標</p> <p>第3回：現代社会における子どもの健康に関する現状と課題</p> <p>第4回：地域における保健活動と子ども虐待防止（課題 1）</p> <p>第5回：身体発育及び運動機能の発達と保健</p> <p>第6回：生理機能の発達と保健 生理機能の発達①（呼吸器、循環器、免疫、消化器） 生理機能の発達②（尿排泄機能、水分代謝、体温調節、内分泌機能） 生理機能の発達③（睡眠、感覚、神経、精神、情緒、行動）（課題 2）</p> <p>第7回：健康状態把握及び心身の不調等の早期発見の重要性</p> <p>第8回：発育・発達の把握と健康診断</p> <p>第9回：保護者との情報共有</p> <p>第10回：子どもの主な疾病の特徴①先天異常（課題 3）</p> <p>第11回：子どもの主な疾病の特徴②循環器系・呼吸器系・血液・消化器（課題 4）</p> <p>第12回：子どもの主な疾病の特徴③アレルギー・泌尿器系・内分泌代謝（課題 5）</p> <p>第13回：子どもの主な疾病の特徴④脳・運動器・耳・眼・皮膚・歯の病気（課題 6）</p> <p>第14回：子どもの主な疾病の特徴⑤感染症（課題 7）</p> <p>第15回：予防接種（課題 8）</p>			
テキスト：子どもの保健 谷田貝公昭監修、吉田直哉・糸井志津乃編著			
参考書・参考資料等：保育所保育指針解説平成30年3月 厚生労働省編			
<p>出席確認：出席は3分の2以上とする。</p> <p>出席確認方法は、登校確認カード、点呼及びオンライン入室方法の併用。（オンライン入室方法は、オンライン入室時にチャットにて入室を知らせるメールと学籍番号を入力する。授業の始まりにビデオ映像オンにした状態で教員が写メを撮り、映像による確認を行う。ビデオオンの指示に従わない場合は欠席扱いにする。授業内で指示によりリアクションを求める。リアクションがない場合、早退遅刻扱いとする。）</p> <p>学生に対する評価：①提出課題80点、②授業参加態度・興味・関心・主体性、20点</p> <p>*授業を欠席した際には、その授業の課題は原則として受理しない。</p> <p>① ②を合計で100点。80点以上「優」、70～79点「良」、60～69点「可」、59点以下「不可」とする。</p>			

授業科目名： 子どもの食と栄養	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 2単位 (演習)	担当教員名：松本辰子
			配当学年：二部3年
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（「子どもの食と栄養」）		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ <ul style="list-style-type: none"> ・健康な生活を基本として食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。 ・子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。 ・保育における食育の意義・目的、基本的考え方について理解する。 ・家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 ・特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。 			
授業の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心身共に健康な体づくりのために、保育者として必要な食と栄養の知識・調理技術を習得し、自らも望ましい食生活を実践できるようにする。また、保育における食育の重要性を理解し、保護者や子どもに指導ができる専門性を養う。 			
授業計画 <p>第1回：①ガイダンス（演習計画・評価法） ②子どもの心身の健康と食生活・現状と課題</p> <p>第2回：③栄養に関する基本的知識〔栄養の基本的概念〕 ④栄養に関する基本的知識〔炭水化物〕</p> <p>第3回：⑤栄養に関する基本的知識〔脂質・たんぱく質〕 ⑥栄養に関する基本的知識〔無機質・ビタミン・水〕</p> <p>第4回：⑦栄養に関する基本的知識〔食べ物の消化と吸収〕：⑧栄養に関する基本的知識〔食事摂取基準・献立作成〕</p> <p>第5回：⑨栄養に関する基本的知識〔食の安全・調理の基本・衛生管理〕</p> <p>⑩子どもの発育・発達と食生活〔乳児期の栄養・食生活・乳汁栄養・離乳〕</p> <p>第6回：⑪調乳実習 ⑫離乳食初期の調理実習</p> <p>第7回：⑬子どもの発育・発達と食生活〔幼児期の栄養・食生活・食行動〕 ⑭食物アレルギーについて</p> <p>第8回：⑮⑯離乳食中期～後期の調理実習</p> <p>第9回：⑰子どもの発育・発達と食生活〔学童期・思春期の食生活〕</p> <p>⑱家庭や児童福祉施設における食事と栄養・特別な配慮を要する子どもの食と栄養</p> <p>第10回：⑲子どもの発育・発達と食生活〔妊娠期・授乳期の栄養〕 ⑳妊娠期の栄養を考慮した献立作成</p> <p>第11回：㉑保育所等における食育〔食育基本法・保育所保育指針〕㉒食育だよりを作ろう〔演習の進め方〕</p> <p>第12回：㉓食育課題の選定・文献調査 ㉔食育だより〔指導案の作成〕</p> <p>第13回：㉕㉖食育だよりの作成</p> <p>第14回：㉗筆記試験 ㉘食育だよりの発表</p> <p>第15回：㉙食育だよりの発表 ㉚子どもの食と栄養まとめ</p>			
テキスト	「最新子どもの食と栄養」学建書院		
参考書・参考資料等	必要に応じて資料を配付		
学生に対する評価 <p>筆記試験60%</p> <p>提出物・授業および実習態度40%（特に実習は欠席しないこと）</p>			

授業科目名： 教育行政	学則に定める必修／選択の別 必修科目/選択科目	単位数： 2単位 (講義)	担当教員名：小澤 由理
			配当学年：二部2年
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	－教育の基礎的理解に関する科目 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		
保育士養成課程の区分	－		
担当教員の実務経験	－		
授業の到達目標及びテーマ 教育行政とは公権力のある諸機関が教育に関する法令を教育や保育の現場において実現化する役割を担っています。それゆえ日々の保育現場に大きな影響を与えています。本講義では、教育行政の理念とそれを支える日本国憲法や各種の教育法令（教育基本法、学校教育法）について理解し、国と地方の制度や学校と地域、安全について基本的な事項を知ることを目指します。また授業内で提示する課題を通して、教育評価と保育の質の問題や保育の民営化についての理解を深め、今後の保育の行政課題について保育者として自ら考える力を養います。			
授業の概要 現代日本の幼児教育を含めた教育行政の理念と教育関係法規について、歴史的な変遷や基本的な内容の理解を深めます。また学校と地域の連携、保育者としての学校安全についても講義を行います。また幼稚園と保育所をつかさどる法令や行政機構や、教育要領・保育指針の内容を理解し、保育者の制度上の位置づけと専門性について理解を深め、現在進められている幼保一元化の現状と課題を理解を深めます。			
授業計画 第1回：イントロダクション：教育行政の理念と日本国憲法 第2回：教育制度の原理と教育基本法 第3回：学校教育法と学校制度 第4回：教育委員会制度と教育ガバナンス 第5回：社会教育制度 第6回：諸外国の学校制度・幼児教育 第7回：学校と地域の連携：家庭教育と幼稚園、地域との関わり 第8回：学校保健安全法と安全教育・危機管理 第9回：現代日本の幼保一元の政策動向と課題 第10回：幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領のねらいと内容 第11回：幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の計画・実践・評価 第12回：地域の保育を考える 1) 横浜市の保育の現状と課題 第13回：地域の保育を考える 2) よりよい保育の実現のために 第14回：講義の振り返り・発表 第15回：期末テスト・解答解説			
テキスト 授業プリントの配布、課題作業シートを配信する。			
参考書・参考資料等 伊藤良高『幼児教育行政学』晃洋書房 2018年 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示内閣府・文部科学省・厚生労働省)			
学生に対する評価 出席確認は指定の時間に行う。成績評価：授業内で提示する課題の提出：60% 試験40%			

授業科目名： 教育課程総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位 (講義)	担当教員名：辻和希 配当学年：二部1年 担当形態：単独
教員養成課程の区分	教育の基礎的理解に関する科目（教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む））		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（「保育の計画と評価」）		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ ・教育・保育課程編成の意義や必要性を認識し、その編成の仕方について理解している。 ・学習指導要領や幼稚園教育要領及び保育所保育指針に関する理解をもとに、カリキュラム・マネジメント力を身に付けている。			
授業の概要 教育課程・保育計画の内容と意義について理解することにより、指導計画作成に関する基本的理解を獲得する。自ら指導計画（長期・短期）を作成しながら、カリキュラム・マネジメントの手法を体験的に身に付ける。			
授業計画 第01回：オリエンテーション・「教育課程」とは 第02回：教育課程の目的・目標・内容 第03回：カリキュラムの種類 第04回：日本における教育課程の変遷（戦後～1990年代） 第05回：日本における教育課程の変遷（2000年代～現在） 第06回：指導要領の目的と役割（教育・保育内容の五領域） 第07回：指導要領の変遷とそれぞれの改訂の主旨 第08回：現行の教育課程 第09回：カリキュラム・マネジメント 第10回：諸外国の教育課程（フランス） 第11回：諸外国の教育課程（イタリア） 第12回：長期・中期指導計画とその作成 第13回：短期指導計画とその作成 第14回：指導要録とその作成 第15回：本授業のまとめ			
テキスト 教科書は使用しない。必要に応じて、資料を配布する。			
参考書・参考資料等 『幼稚園教育要領解説書』文部科学省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省			
学生に対する評価 ① レポート（50%）、②小テスト（30%）③授業時に実施するコメントシート（20%）			

授業科目名： 保育内容指導法Ⅱ	学則に定める必修／選択の別 選択科目	単位数： 1単位 (演習)	担当教員名：清水 かおり
			配当学年：二部3年
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目（保育内容の指導法）		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目		
担当教員の実務経験	幼稚園教諭（6年）、保育士・保育教諭（7年）		
授業の到達目標及びテーマ 乳幼児教育が総合的な指導方法によることを知り、保育者として、指導性だけでなく人間性や専門性を磨くことの大切さを知る			
授業の概要 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針を、事例やビデオを通して理解する。また、指導計画の重要性を理解するように、子どもの遊びや生活を理解する。			
授業計画 第1回：日本の幼児教育の現状 第2回：外国の幼児教育の紹介と日本の幼児教育の基本 第3回：子どもの発達や経過、特性と発達の課題を理解する 第4回：幼児理解を深める 第5回：幼稚園教育要領、認定こども園のとらえ方と運用 第6回：子どもの遊びの意味と保育者の指導のあり方（子どもにとって遊びとは…） 第7回：子どもの遊びの意味と保育者の指導のあり方（一人ひとりの子どもに合わせた援助） 第8回：総合的指導と保育のあり方（子どもの遊びに合わせた環境構成について） 第9回：総合的指導と保育のあり方（ねらいや保育者の援助の見直し） 第10回：教育課程と年間指導計画について 第11回：長期指導計画を元に短期指導計画を見直す 第12回：デイリープログラムを立案し、グループごとに模擬保育実践 第13回：模擬保育を元に、保育者の援助活動の振り返り 第14回：模擬保育からの振り返りを元に、グループごとに教材研究の見直し 第15回：グループごとに教材研究発表・振り返り・定期試験			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省） 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）			
学生に対する評価 ワークシート課題（50％）と期末のレポート（50％）により総合評価を行う			

授業科目名： 保育内容指導法 I	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 1単位 (演習)	担当教員名：岸本圭子
			配当学年：二部3年
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目（保育内容の指導法）		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（「保育内容総論」）		
担当教員の実務経験	幼稚園教諭(幼稚園・20年)		
授業の到達目標及びテーマ			
<ol style="list-style-type: none"> 1 幼児教育における指導法とは何か。指導と援助の基本的な違いについて理解させる。 2 幼児が園の生活でどのような主体性を発揮していくか、また発揮できるように保育者はどのように主体性を育てるのか、主体性を育てる指導法について学ぶ。 3 幼児が主体的に活動できる環境の意義を理解するとともに、その環境づくりにおける保育者の役割を理解する。 4 科学的探究心や思考力・態度を育てることの理解を深め、より豊かな人間性を培っていくことを理解する。 			
授業の概要			
<ol style="list-style-type: none"> 1 幼児の発達の特質、幼児の理解の原理、幼児教育指導法の歴史をふまえて、幼児1人ひとりに即した指導・援助するときの基礎知識と具体的指導の方法を実践事例や視聴覚教材を用いて授業（演習）を展開していく。 2 保育者中心の強すぎる指導ではなく、子どもたちの個別性・自発性・主体性を尊重した指導援助のあり方について具体的な事例を通して学習する。 3 対象児の発達段階に適した指導案作りや独創性のある遊びの教材研究を行う。 			
授業計画			
第1回：保育内容とは何か			
第2回：幼児教育における指導法とは何か			
第3回：発達に応じた指導法とは			
第4回：主体性を育てる指導法とは			
第5回：5領域と指導法、健康と指導法、基本的生活習慣とその指導			
第6回：人間関係と指導法			
第7回：環境と指導法			
第8回：表現と指導法			
第9回：言語と指導法			
第10回：各領域の総合的な保育指導、情報機器について			
第11回：遊びを通じた保育指導			
第12回：子どもの観察・記録と保育実践			
第13回：指導計画と実践			
第14回：世界の保育方法			
第15回：試験と振り返り			
テキスト			
はじめて学ぶ保育「保育内容の指導法」谷村宏子編著(ミネルヴァ書房)			
参考書・参考資料等			
幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)			
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)、保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)			
演習「保育内容総論」酒井幸子・守巧編著(萌文書林)、適宜プリントを配布する			
学生に対する評価			
定期試験(50%) 受講態度・演習内容の振り返り・提出物(50%)			

授業科目名： 健康I	学則に定める必修/選択の別 必修科目	単位数： 2単位 (講義)	担当教員名：鈴木 敦
			配当学年：二部2年
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	—		
担当教員の実務経験	—学校法人立幼稚園（金沢区）教諭として実務経験（担任含）15年副園長として8年。社会福祉法人（金沢区）の新規法人設立および保育所設立を担当し、同施設副施設長として実務経験8年。現在社会福祉法人理事。2019年4月、学校法人立幼稚園が認定こども園に移行、園長に就任。横浜市立並木中央小学校放課後キッズクラブ運営法人（社会福祉法人）担当理事も務めている。		
授業の到達目標及びテーマ 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」そして「幼保連携型認定こども園教育保育要領」に示された基本を踏まえ、領域「健康」のねらいおよび内容について理解を深め、乳幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的知識を習得する。乳幼児に関する現代的課題が身近で広範囲に渡っていることを理解できるようにする。			
授業の概要 幼児を取り巻くさまざまな環境が幼児の健康に与える影響について「身体的」「精神的」「社会的」、そして「文化的」側面から分析し、考察を深める。教育保育の現場が抱える乳幼児の「健康」について積極的に触れ、乳幼児が積極的に身体を動かしたくなるような保育の現場を支える幼稚園教諭、保育士、保育教諭として乳幼児に与える援助や環境構成について学ぶ。各回授業学習課題として各回授業の到達目標について予習（自分の考えをまとめる）を行い復習として授業を通して学んだことをノート等にまとめる。			
授業計画 第1回 乳幼児期の健康の発達の意味と健康課題について学ぶ。また、「シラバス」に基づき全講義内容を説明する。 第2回 乳幼児期の身体の発達的特徴について学ぶ。 第3回 乳幼児期の生活習慣について学ぶ。 第4回 乳幼児期の食生活について学ぶ。 第5回 乳幼児期の安全な生活と病気の予防について学ぶ。 第6回 乳幼児期の運動発達と身体活動について学ぶ。 第7回 領域「健康」のねらいおよび内容について学ぶ。 第8回 領域「健康」と小学校以降の教科等とのつながりについて学ぶ。 第9回 領域「健康」と乳幼児を取り巻く環境構成について学ぶ。 第10回 領域「健康」の指導法と保育の構想（0、1、2歳児編）について学ぶ。 第11回 領域「健康」の指導法と保育の構想（3、4、5歳児編）について学ぶ。 第12回 運動遊びに関わる指導方法について学ぶ。 第13回 食育について理解を深め、その指導方法について学ぶ。 第14回 安全教育とその指導法について理解を深め、救急対応について学ぶ。 第15回 期末試験および解答解説。また、14回までの講義を振り返りながら領域「健康」の現代的課題と将来における領域「健康」の動向について考察する。			
テキスト 指定しない			
参考書・参考資料等 幼稚園教育指導要領（平成29年度告知版）、保育所保育指針（平成29年度告知版）、幼保連携型認定こども園教育保育指導要領（平成29年度告知版）			
学生に対する評価 期末テストまたは課題に対するレポート60%、リアクションペーパー20%、提出物20%			

授業科目名： 人間関係I	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 1単位 (演習)	担当教員名：渡辺泉
			配当学年：二部1年
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目（保育内容の指導法）		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（「保育内容演習」）		
担当教員の実務経験	幼稚園教諭（幼稚園・41年）、保育士（保育園・2年）		
授業の到達目標及びテーマ			
<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領における領域「人間関係」のねらいや内容について説明できる。 ・乳児期のかかわりの重要性について、自分の言葉で説明できる。 ・目に見える子どもの行動や表情から心の動きを推測し、園生活の視点から理解できる。 			
授業の概要			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児期に育てたい豊かな人間関係とは何か、幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領をもとに、子どもの発達段階に沿ったかかわりを考える。 2. 年齢ごとの社会性の発達を理解し、調べ学習を行い、グループワークでの取り組みを発表する。 3. 乳児期のかかわりの重要性について、親子関係を中心としながら多面的に理解できるように展開していく。幼児期の遊びや生活の中で育つ力について考え、人間関係の発達を理解して、保育者の役割を理解できるように展開する。 			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、保育内容「人園関係」とは			
第2回：自己の経験を振り返るワークショップ			
第3回：現代社会におけるかかわりの喪失			
第4回：保育内容「人間関係」の基本的な理解			
第5回：乳児の発達とかかわりの育ち ～0・1・2歳児の発達を理解し、関わりの援助を考える～			
第6回：乳児の発達とかかわりの育ち ～親子のかかわりと人格形成の基盤を考える～			
第7回：幼児の発達とかかわりの育ち ～3・4・5歳児の発達を理解し、関わりの援助を考える～			
第8回：幼児の発達とかかわりの育ち ～幼児が多様な人とかわるの体験の必要性を考える～			
第9回：かかわりを見つめる視点 ～子ども主体の保育と人間関係～ ※保育現場の映像を視聴			
第10回：かかわりを見つめる視点 ～集団の中で育つ人間関係「けんかの中で育つ力」～			
第11回：グループワークを通して集団での遊びを考える			
第12回：自分たちで考えた集団での遊びを実践し、指導案を作成する			
第13回：自己肯定感と人間関係の育ちを考える。～集団の中で育つ人間関係の課題～			
第14回：幼児教育の現代的課題と保育内容「人間関係」			
第15回：まとめと試験			
テキスト			
『事例で学ぶ保育内容<領域>人間関係』 無藤隆監修 岩立京子・赤石元子編著（萌文書林）			
参考書・参考資料等			
幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)			
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)			
保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)			
適宜、資料プリントを配布する。			
学生に対する評価 : 試験：50% 課題提出と振り返り：40% 授業態度：10%			
◎成績評価は、受講形態の違いでの影響なく行う。			
出席確認 : 開始時出席確認をし、遅刻早退は板書して入退出、最後は授業の振り返りを記入する			

授業科目名： 環境 I	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 1単位 (演習)	担当教員名：大嶋織江
			配当学年：二部1年
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目（保育内容の指導法）		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（「保育内容演習」）		
担当教員の実務経験	幼稚園教諭		
授業の到達目標及びテーマ			
<ol style="list-style-type: none"> 1 幼児にとっての環境の大切さを学ぶ 2 幼児が意欲的にかかわる環境づくりを学ぶ 3 学習したことと実際の保育とを結びつけるため、具体的イメージを持てるようにする。 			
授業の概要			
<p>幼児は、環境と能動的に関わることを通して生きる力を獲得していく。そのため、保育環境を整えることは大変重要なため、どのように構成していくのか考える。その環境の中で幼児が具体的にどのような遊びを展開し、どのような力を獲得していくのか、さらに保育者の援助はどうあるべきなのかなどについて、具体的な事例や写真をもとに考えていく。学生自身も環境のひとつとして立居振る舞いに気を付け、環境に鋭く反応できる保育者になることを目指す。</p>			
授業計画			
<p>第1回：領域「環境」とは…。(自己紹介とオリエンテーション)</p> <p>第2回：子どもの育ちにかかわる現代の生活環境とその課題（物、生き物、自然に関する問題など）</p> <p>第3回：乳幼児期における環境へのかかわり</p> <p>第4回：幼児期前半における環境へのかかわり</p> <p>第5回：幼児期後半における環境へのかかわり</p> <p>第6回：物とのかかわりににおける子どもの育ち</p> <p>第7回：ごっこ遊びの体験（お寿司屋さんごっことグループワーク）</p> <p>第8回：自然・季節とのかかわりににおける子どもの育ち</p> <p>第9回：地域社会・施設とのかかわりににおける子どもの育ち</p> <p>第10回：絵本『しずくのぼうけん』物語の絵を描く（下書き）</p> <p>第11回：絵本『しずくのぼうけん』物語の絵を描く（色塗り）と絵の発表</p> <p>第12回：ごっこ遊びの体験（パン屋さんごっこ）～もくねんさんの粘土を使ってのパン作り（形づくり）～</p> <p>第13回：ごっこ遊びの体験（続き パン屋さんごっこ）～もくねんさんの粘土を使ってのパン作り（色塗り）とグループワーク</p> <p>第14回：情報環境・文化財とのかかわりににおける子どもの育ち</p> <p>第15回：授業の振り返りとまとめ ～子どもの環境へのかかわりを促す保育者の役割とは～</p>			
テキスト			
シードブック『保育内容 環境 第3版』榎沢良彦・入江礼子編著 建帛社 2019年4月			
参考書・参考資料等			
幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)			
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)			
保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)			
学生に対する評価：授業中に点呼により出席確認を行う。グループワーク、発表、振り返りシート、レポートなど。			

あ授業科目名： 言葉Ⅰ	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 1 単位 (演習)	担当教員名：渡邊 晶
			配当学年：二部1年
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	—		
担当教員の実務経験	—		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>5 領域の 1 つである「言葉」という側面から子ども理解や実際の保育方法について学ぶ。子どもの発達過程に即した子ども理解と共に、事例研究やグループワークを通し、考察力・実践力を習得する。</p> <p>また、生後から小学校就学前までの子どもの発達過程にそくした子ども理解とともに、「子どもが言葉をどのように習得するか」について、事例研究やグループワークを通して学ぶ。</p> <p>授業内では、実際に幼稚園や保育所で行われている活動やあそび等をたくさん取り入れ、その中で、各年齢にふさわしい教材やカリキュラムを考えながら学び、実践力を習得する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>実技を中心に授業を進める。グループワーク、ディベートの時間を積極的に取り入れ、発表の機会も設ける。事前学修としては教科書や調べ物を中心に約 2 時間程度の課題を指定し、事後学修としては学生自身が習得した事をまとめる課題に取り組む。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第 1 回 : オリエンテーション／領域「言葉」について</p> <p>第 2 回 : 子どものことばと育ち</p> <p>第 3 回 : 領域「言葉」とはなにか</p> <p>第 4 回 : ことばはどのように育つか—言葉の発達① ~ 生後から 2 歳児</p> <p>第 5 回 : ことばはどのように育つか—言葉の発達② ~ 3 歳児から就学前</p> <p>第 6 回 : 子どものことばと保育者</p> <p>第 7 回 : 絵とことばの豊かな世界を楽しむ／紙芝居制作について</p> <p>第 8 回 : うたやふれあい遊びを楽しむ遊び</p> <p>第 9 回 : 劇や物語を楽しむ児童文化財と内容</p> <p>第 10 回 : 想像やことばのリズム遊びを楽しむ</p> <p>第 11 回 : 紙芝居発表会</p> <p>第 12 回 : ごっこ遊びの世界から劇遊びへ① ~ 劇あそびの原点を探ってみよう</p> <p>第 13 回 : ごっこ遊びの世界から劇遊びへ② ~ 実際にごっこ遊びを考えてみよう</p> <p>第 14 回 : 特別な配慮が必要な子どもとの関わり</p> <p>第 15 回 : 定期試験／まとめ・総論</p>			
<p>テキスト</p> <p>言語表現～五感で楽しむ児童文化財～ 著者：渡邊 晶 出版社：大学図書出版</p> <p>ISBN：9 7 8 - 4 - 9 0 7 1 6 6 - 4 9 - 6</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>幼稚園教育要領、保育所保育指針</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>レポート 20%、グループワーク 10%、製作物 10%、試験 60%</p>			

授業科目名： 表現 I	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 1単位 (演習)	担当教員名：鈴木恵利子
			配当学年：二部2年
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目（保育内容の指導法）		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（「保育内容演習」）		
担当教員の実務経験	幼稚園教諭（幼稚園・40年）		
授業の到達目標及びテーマ 表現とは心が開いてそこから出てくるものでそれを育ていくのが表現教育である。「子どもが安心して心を開き勇気や自信をもって表現する力」を育むためには、保育者は表現をどのように捉え、どのような受容の仕方や援助の方法が望ましいのかについて探求する。さらに、保育者を目指すところの、表現者としての自分を見つめることをも促したい。			
授業の概要 教育・保育要領にある「表現」の内容を理解するとともに、子どもの内面の育ちを豊かに育むための環境や保育の在り方を実技・講義を通して考え、保育の実践につながるものとなるよう深める。また、「表現」とは何かについて押さえながら、グループ学習により、子どもの年齢や発達にあわせた表現活動の適性について実技体験を通して学ぶ。			
授業計画 第 1 回：オリエンテーション 表出から表現へ・授業の内容と方法 第 2 回：保育内容・領域「表現」について 第 3 回：表出から表現へ 表出の喜びと表現の喜び・講義と実技 第 4 回：自然を感じる心と感性 自然の中で表現あそび 第 5 回：表現と感性 「あrawし」と「うけとめ」 第 6 回：子どもの心を考える 生活の中で子どもの表現 第 7 回：心の表現と受け止める心をエピソードから学ぶ 第 8 回：「描きあrawし」の楽しさ・リズムで遊ぶ 第 9 回：お話作りから「手のひら絵本」作り 第 10 回：「手のひら絵本」発表 第 11 回：新聞紙のあそび 教材研究から部分実習・責任実習指導案作り 第 12 回：指導案をもとに模擬授業 第 13 回：総合的な表現活動、ごっこ遊びから劇あそびへと 第 14 回：総合的な表現活動、言葉、身体で表現する楽しさ・伝え合う喜び 第 15 回：まとめ・テスト			
テキスト 授業者の配布資料			
参考書・参考資料等 大場牧夫著『表現原論』、萌文書林、2008 無藤隆(監修)『領域 表現』、萌文書林、2018 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領			
学生に対する評価 筆記試験（80%） 毎回の授業に対する取り組み・課題・提出物（20%） を総合的に評価する			

授業科目名： 乳児保育 I	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 2単位 (講義)	担当教員名：柳田葉子 配当学年：二部2年 担当形態：単独
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（「乳児保育 I」）		
担当教員の実務経験	保育士（保育所・39年）		
授業の到達目標及びテーマ 乳児保育の意義・目的・役割を学び、現代の子育て社会の状況を知り、乳児保育の果たす役割と必要な知識と技術を習得する。			
授業の概要 乳児保育の意義と役割・歴史的変換などを学び、乳児が育つ環境のDVDを視聴し、写真などを使用してグループ討議を行い、一人一人の学生が理解できる講義を行う。			
授業計画 第1回：授業についてのオリエンテーション・赤ちゃんが育つ場所 第2回：乳児保育の役割・養護と教育 第3回：乳児保育の歴史的変換 第4回：胎児期の成長を知る(DVD視聴) 第5回：0歳児の発達と保育者のかかわり方 第6回：0歳児の保育内容・一日の流れ 第7回：1・2歳児の発達と保育者のかかわり方 第8回：1・2歳児の保育内容・一日の流れ 第9回：乳児の遊びとおもちゃ 第10回：保育室の環境構成 第11回：保育士の専門性と資質向上について 第12回：職員間の連携・協働、保護者や地域との連携 第13回：保護者対応、子育て支援について 第14回：乳児保育の指導計画 第15回：授業の振り返り 学びの確認			
テキスト	新保育所保育指針		
学生に対する評価 授業に向う姿勢・提出物（20%） 、 試験（80%）			

授業科目名： 乳児保育Ⅱ	学則に定める必修／選択の別 選択科目	単位数： 2単位 (講義)	担当教員名：清水かおり 担当形態：単独
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	—		
担当教員の実務経験	幼稚園教諭（6年）、保育士・保育教諭（7年）		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>3歳未満児における育ちの過程や特性を踏まえ、保育者としての援助や関わりの基本的な考え方について理解する</p> <p>養護及び教育が一体的に展開される3歳未満児の子どもの生活や遊びについて、保育の方法及び配慮の実際を理解する</p> <p>乳児保育における計画について理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>乳児保育における一人ひとりの子どもとの受容的・応答的な関わりや、遊びや生活の充実に向けた実践力を高めるため、事例検討等を通して学ぶ。</p> <p>3歳未満児クラスの指導計画の作成や相応しい環境等について学び、乳児保育の理解を深めていく。</p> <p>資料を基に概要を講義した後、グループワーク等により保育の視点を広げていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業についてのオリエンテーション</p> <p>第2回：3歳未満児における子どもの主体性と保育士の援助</p> <p>第3回：子ども同士の関わりと保育士の援助</p> <p>第4回：乳児保育における受容的・応答的なかわり</p> <p>第5回：3歳未満児の1日の生活の流れと保育環境</p> <p>第6回：子どもの生活と遊びが豊かになる保育環境</p> <p>第7回：指導計画の立案（1）短期的・長期的指導計画と作成の手順</p> <p>第8回：指導計画の立案（2）指導計画の作成</p> <p>第9回：指導計画の立案（3）作成した指導計画の発表</p> <p>第10回：子どもの育ちと保育内容（1）3歳未満児の睡眠、抱っこ・おんぶ（実践）</p> <p>第11回：子どもの育ちと保育内容（2）衣服の着脱と排泄及び沐浴（実践）</p> <p>第12回：子どもの育ちと保育内容（3）授乳から始まる食事（実践）</p> <p>第13回：子どもの育ちと保育内容（4）遊び（実践）</p> <p>第14回：集団での生活と健康・安全と情緒の安定、及び環境の変化や移行に対する配慮</p> <p>第15回：乳児保育に必要な知識と技術の確認、授業の振り返りとまとめ</p>			
<p>テキスト</p> <p>なし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>『保育所保育指針』（平成29年3月告示 厚生労働省）</p> <p>『幼保連携型こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>定期試験（50%）、課題（20%）、リアクションペーパー（20%）、授業への取り組み（10%）の割合で評価する。</p>			